



こども食堂の現状 & 困りごとアンケート

vol.9

結果報告

回答期間 : 2024年7月27日(土)～2024年8月19日(月)

回答対象 : 各地の「こども食堂の地域ネットワーク」および
「こども食堂ネットワーク」とつながるこども食堂

回答数 : 47都道府県 1,307件(重複回答を除く)

実施 : 認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ

第1部

こども食堂の現状

- ・ こども食堂開始年
- ・ こども食堂の運営母体
- ・ 予算規模
- ・ 活動形態
- ・ 活動形態別の年間開催数
- ・ 活動形態別の参加人数
- ・ 寄付・物資の提供者数
- ・ 保険加入状況
- ・ 活動の主な目的
- ・ 参加条件
- ・ 今後の活動意向

第2部

こども食堂の困りごと

- ・ 活動に関する困りごと
- ・ 運営資金の不足について
- ・ 食材の不足について
- ・ ITツールの活用について
- ・ 困りごとに対する対応策
- ・ 対応策への障壁
- ・ 困りごとの相談相手

第3部

物価上昇によるこども食堂への影響

- ・ 物価上昇による変化
- ・ 物価上昇の影響
- ・ 支援の状況
- ・ もらうと嬉しい食材・物品
- ・ 食材・物品を確保する方法

第4部

活動に関する困りごと&今後の活動志向(自由記述)

- ・ 活動に関する困りごと
- ・ 今後の活動志向

別添1

クロス集計データ

別添2

むすびえプロジェクトの活用状況

- ・ 助成金
- ・ ファンドレイジングセミナー
- ・ ボランティア・後継者の不足に対する支援
- ・ 食品衛生管理向上プロジェクト
- ・ IT活用支援

過去の調査結果は、以下にまとめています。
【こども食堂のこども食堂の現状&困りごとアンケート】

第1回 2020年4月13日～4月17日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/04/musubie_Q_sheet_0423.pdf

第2回 2020年6月19日～6月25日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/07/musubie_Q2_sheet_0713.pdf

第3回 2020年9月20日～9月28日 実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/10/musubie_Q3_sheet_1020_02.pdf

第4回 2021年2月1日～2月10日 実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2021/03/musubie_Q4_sheet_fix0312.pdf

第5回 2021年6月23日～7月4日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2021/07/musubie_Q5_sheet_0716.pdf

第6回 2022年6月2日～6月16日 実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2022/07/musubie_Q6_sheet_0701.pdf

第7回 2022年10月26日～11月9日 実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2022/12/musubie_Qvo7F_14.pdf

第8回 2023年6月7日～6月21日 実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2023/07/musubie_Q8_sheet_0718.pdf

第1回全国こども食堂実態調査 2021年10月15日から12月15日

<https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2022/03/a7043c68eccf433117d7c6238c32ac0e.pdf>

第2回全国こども食堂実態調査 2023年9月19日から11月8日

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2024/06/Report_Jittai_Chousa.pdf

はじめに

9回目の「現状&困りごとアンケート」結果をお知らせします。

今回も、大変多くのこども食堂さんからご回答いただきました。ありがとうございました。ボランティアで日々の活動を行いながら、お忙しい中、時間を捻出して、ご回答いただいたこども食堂のみなさんに深く感謝します。

コロナはいちおう明けたけど、物価上昇が持続的に続いています。こどもや地域のみなさんの笑顔に触れることでやりがいを感じながらも、他方では課題もあり、しんどい思いをすることもあるというのが、少なからぬこども食堂さんの実感ではないかと推測します。

むすびえは活動団体であり、調査は、活動のためのヒントとご示唆をいただく機会と認識しています。みなさんがお忙しい中で回答してくれた結果や自由記述の言葉を真摯に受け止めて、むすびえとしての事業に結びつけていきますので、引き続き、むすびえの活動内容を厳しく見つめていただければ幸いです。



むすびえ理事長
湯浅 誠

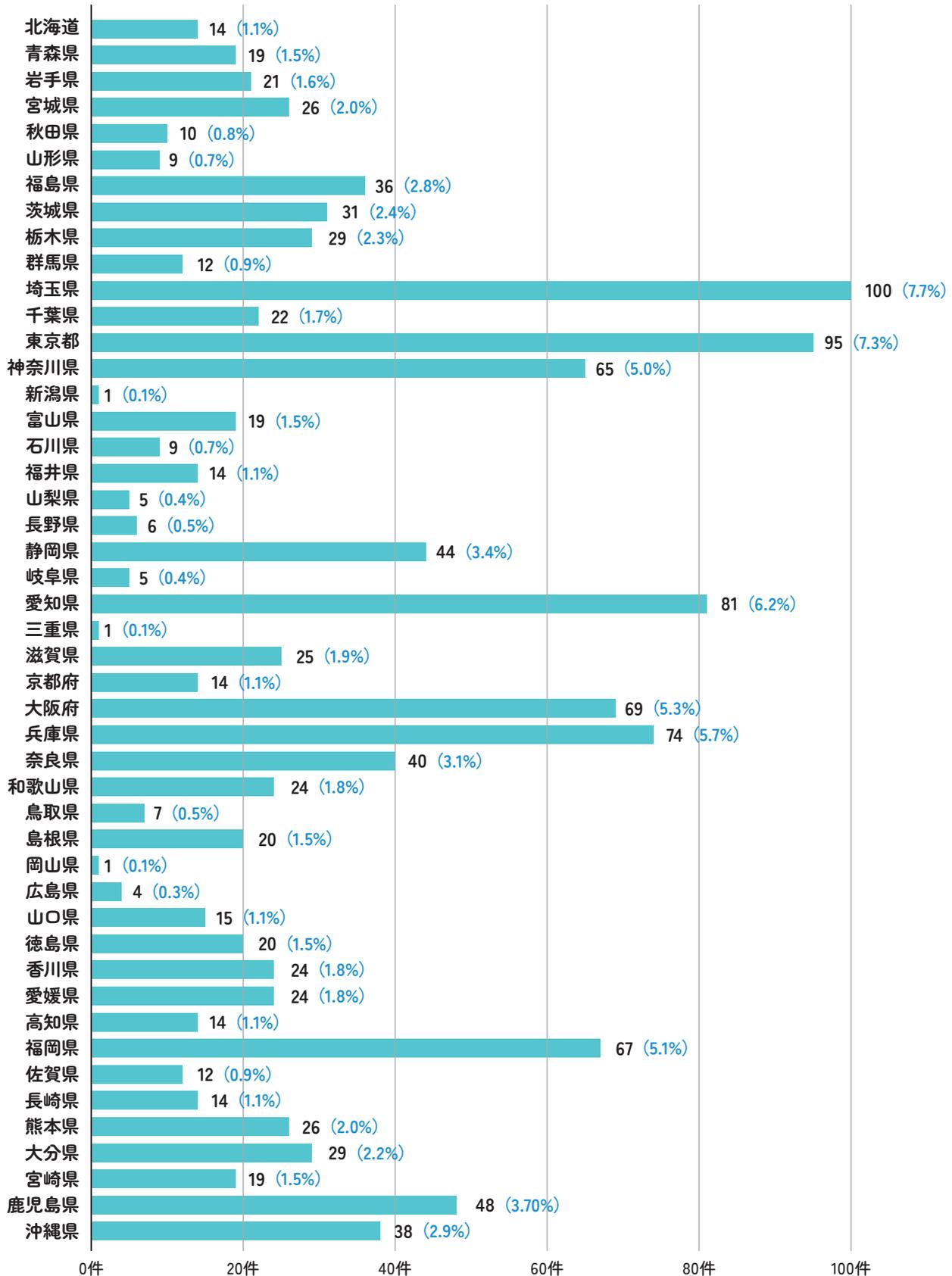
第 1 部

.....

こども食堂の現状

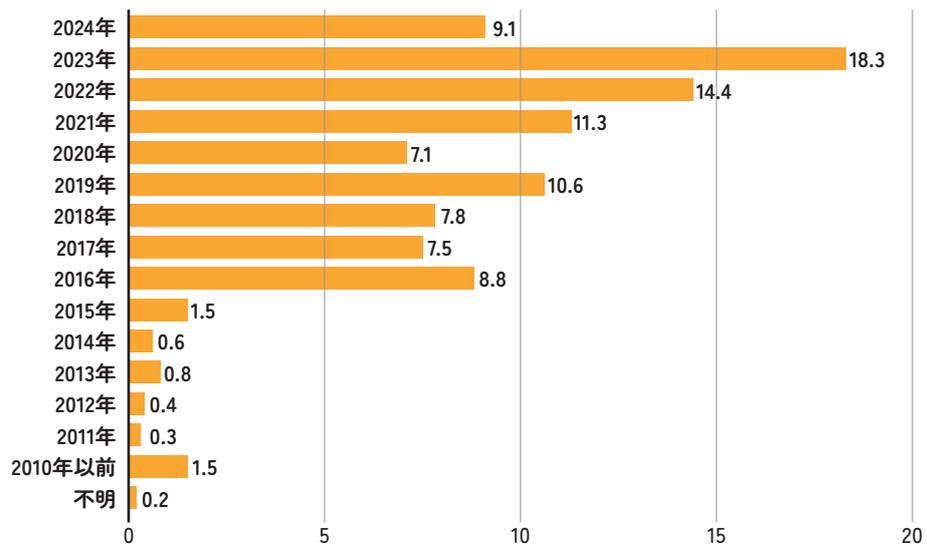
都道府県別の回答したこども食堂の数及び回答率

単位：件および% 回答数=1,307件



1 開始した年について

回答数：n=1,307件 単位：%

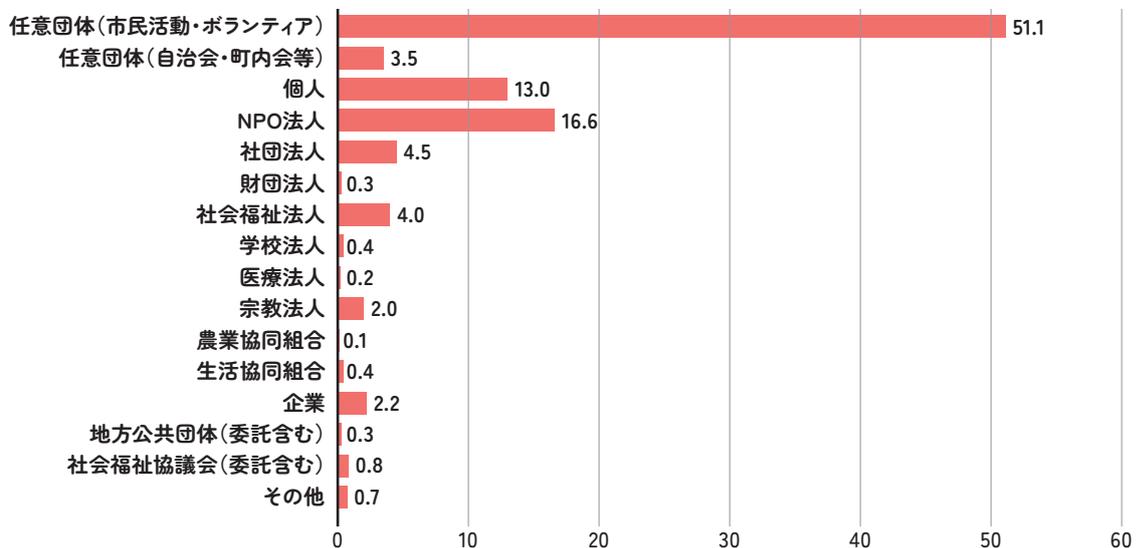


アンケートからわかること

- ・本調査の回答者は、2020年のコロナ以降に設立されたことも食堂が60.2%を占めている。
- ・特に2023年に設立されたことも食堂は全体の回答者の18.3%と最も多い。

2 運営主体について

回答数：n=1,307件 単位：%



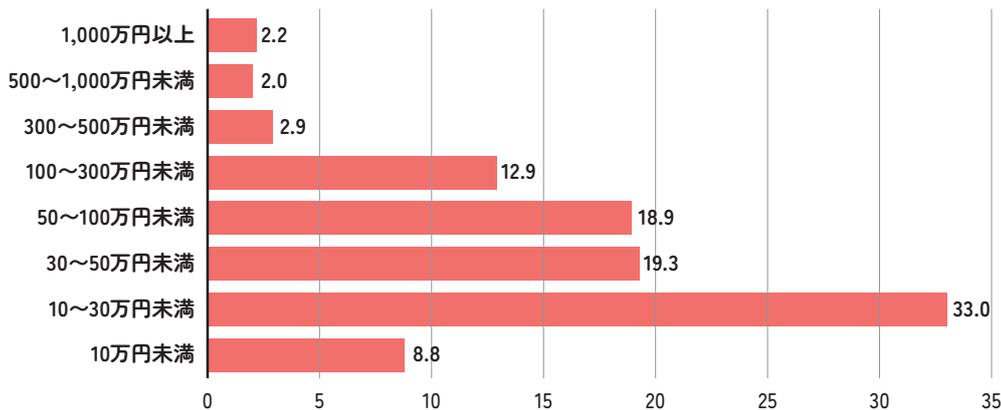
その他：福祉事務所、民生児童委員、NPO法人申請中、NPO法人・ボランティア団体・有志参加者の連携、社会福祉法人・医療法人・生活協同組合の三者協働で運営など

アンケートからわかること

- ・運営団体については任意団体（市民活動・ボランティア）が51.1%と最も多く、次いでNPO法人の16.6%、個人13.0%となっており、上位3項目で80.7%を占めた。

3 予算規模

回答数:1,224件 単位:%

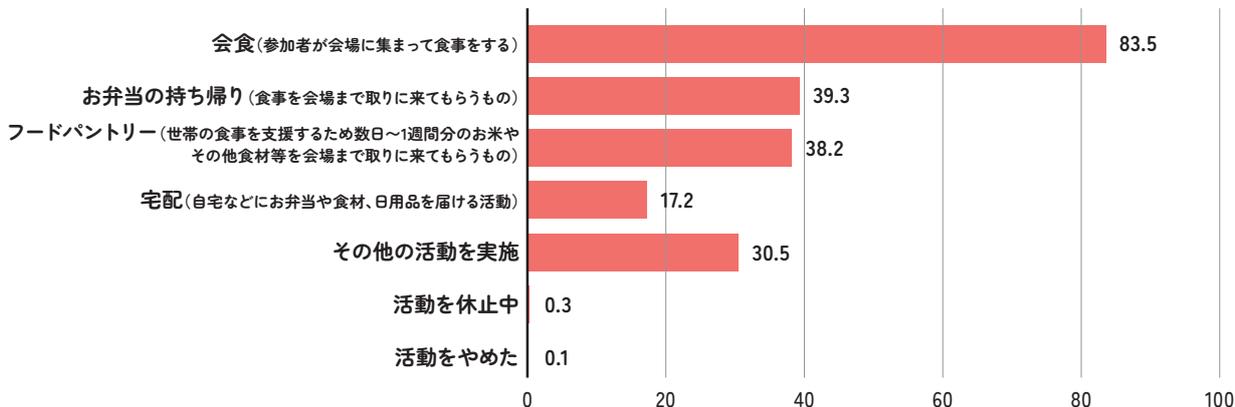


アンケートからわかること

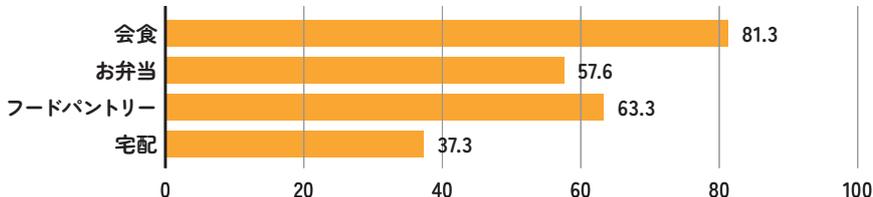
- ・年間予算が50万円以下のことも食堂が6割を超えている。一番多かったのは10~30万円の予算規模のことも食堂で、回答者全体の約3分の1を占めた。

4 活動形態 (複数回答)

回答数:1,307件 単位:%



■ (参考) 第2回子ども食堂実態調査 (2023年9月19日~2023年11月8日、1,483件、複数回答)

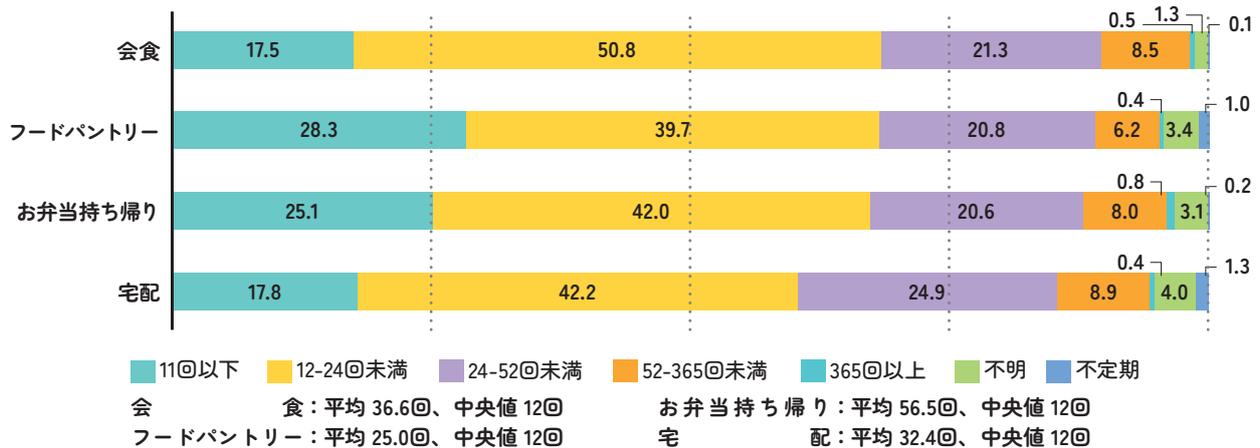


アンケートからわかること

- ・回答者のうち83.5%が会食形式の活動を実施しており、前回調査から変化なし。
- ・フードパントリーやお弁当の持ち帰りを実施していることも食堂も4割近くを占めたものの、前回調査に比して減少傾向。

5 活動形態別の年間開催数

回答数：1,302件 単位：%

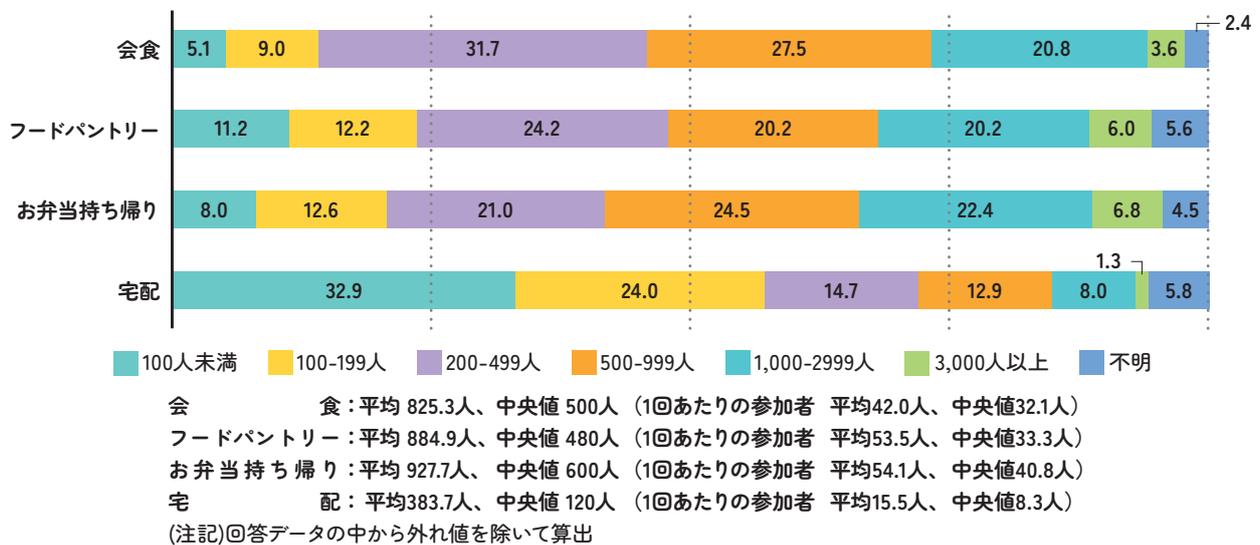


アンケートからわかること

- どの活動形態においても、最も多かったのは「12-24回未満」(月1回以上2回未満)のカテゴリで、中央値はいずれも12回。
- 平均的な開催頻度としては、お弁当持ち帰りが最も多く56.5回、会食は36.6回となった。

6 活動形態別の参加人数(延べ人数)

回答数：1,302件 単位：%

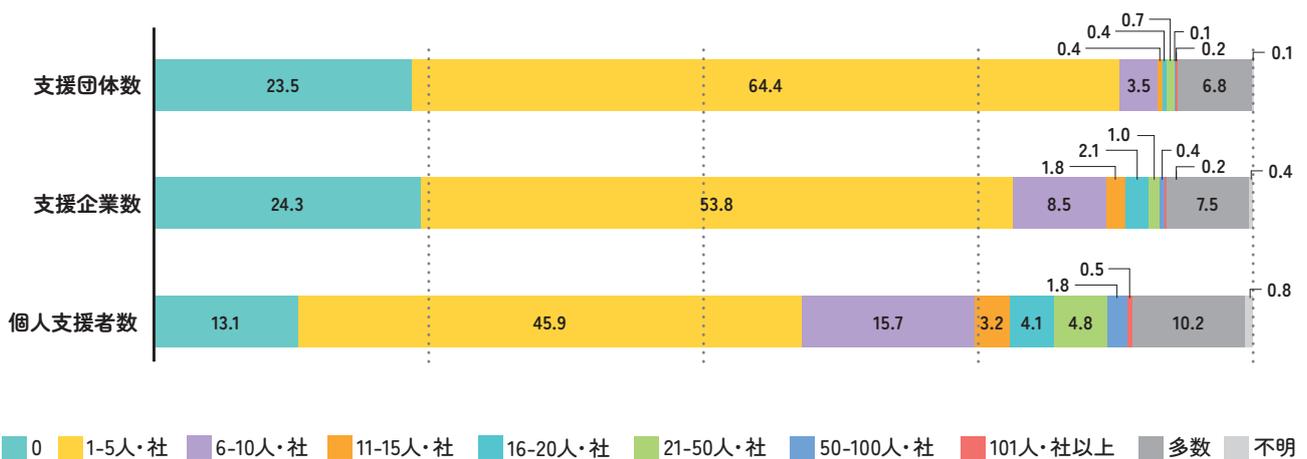


アンケートからわかること

- 会食での年間の参加者延べ人数は、中央値500人となった。
- フードパントリーの年間の参加者延べ人数は、中央値480人となった。
- 1回あたりの平均的な参加者数については、会食で30人前後、フードパントリーでは100人超となった。

7 寄付・物資の提供者数

回答数：1,302件 単位：%



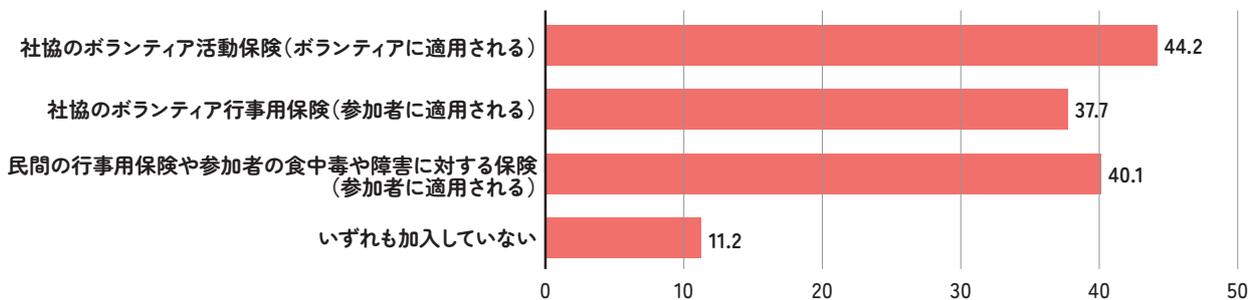
支援団体数：平均 2.4団体、中央値 1団体 支援企業数：平均 5.4社、中央値 2社 個人支援者：平均9.6人、中央値4人

アンケートからわかること

- ・農家など個人支援者では平均9.6人（中央値4人）、支援企業では平均5.4社（中央値2社）、支援団体数では平均2.4団体（中央値1団体）となった。

8 保険加入状況

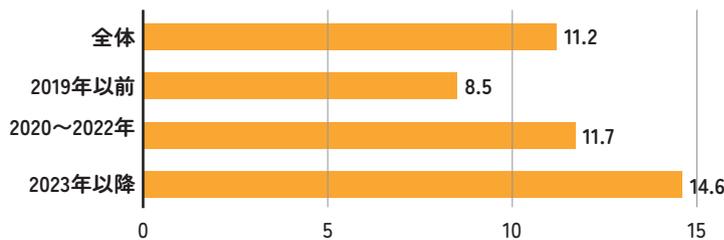
回答数：1,302件 単位：%



アンケートからわかること

- ・回答者においては、いずれかの保険に加入している人は全体の9割近くとなった。

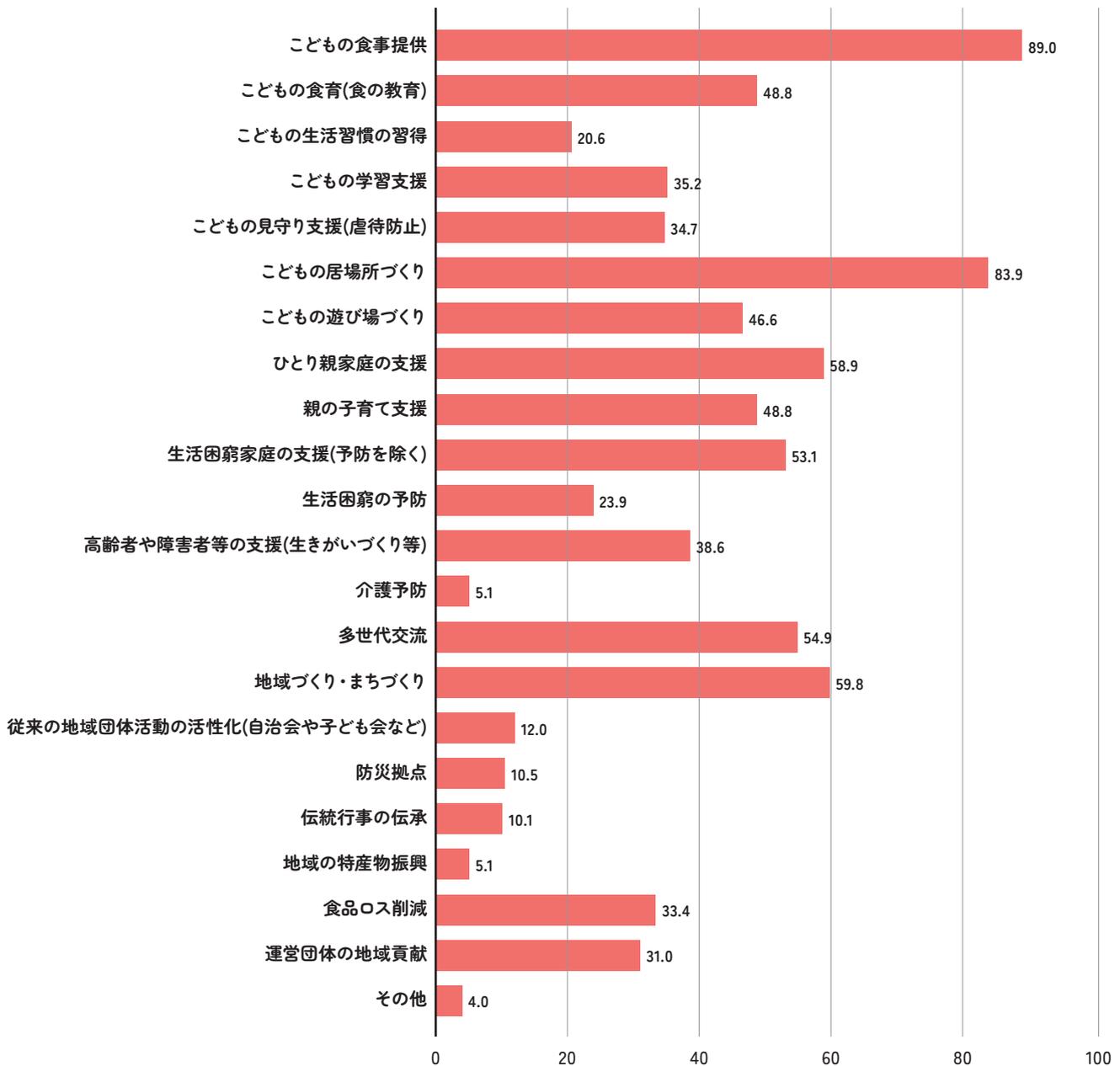
活動開始年別の「いずれも加入していない」の割合



- ・「いずれも加入していない」ことも食堂については、2019年以前に活動開始したことも食堂は少なく、2023年以降に活動開始したことも食堂が多い。

9 活動の主な目的

回答数：1,302件（複数回答） 単位：%



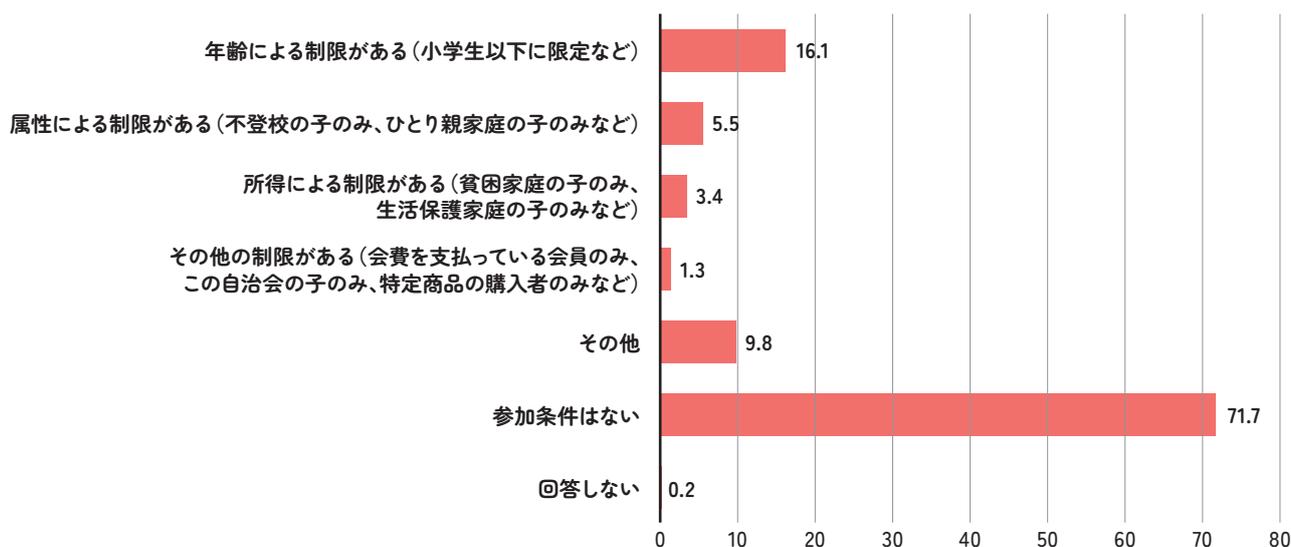
その他：不登校児へのフォロー、体験格差問題の解消、異文化・多文化交流、就労支援など

アンケートからわかること

- ・ こども食堂の活動目的としては、回答者の8割を超えたのは「こどもの食事提供」と「こどもの居場所づくり」で、それぞれ89.0%、83.9%となった。
- ・ 次いで、「地域づくり・まちづくり」や「多世代交流」もそれぞれ59.8%、54.9%となった。
- ・ 一方で、「ひとり親家庭の支援」や「生活困窮者の支援(予防を除く)」もそれぞれ58.9%、53.1%となっている。

10 参加条件

回答数：1,302件 単位：%

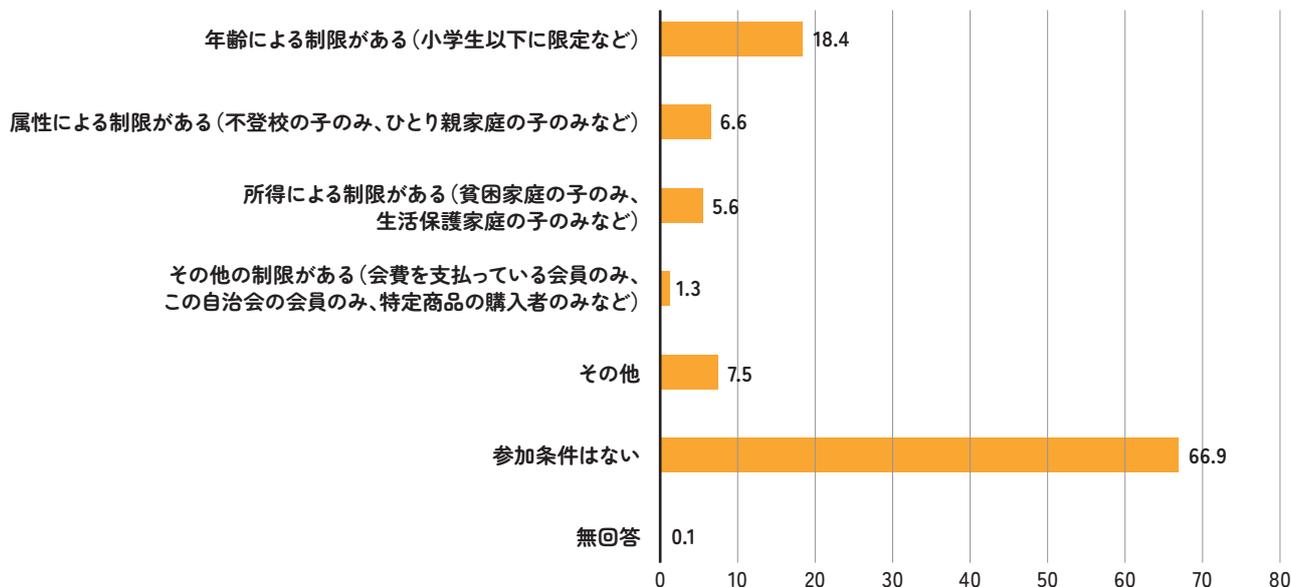


その他： こどもとその保護者、地域在住者に限定、など

アンケートからわかること

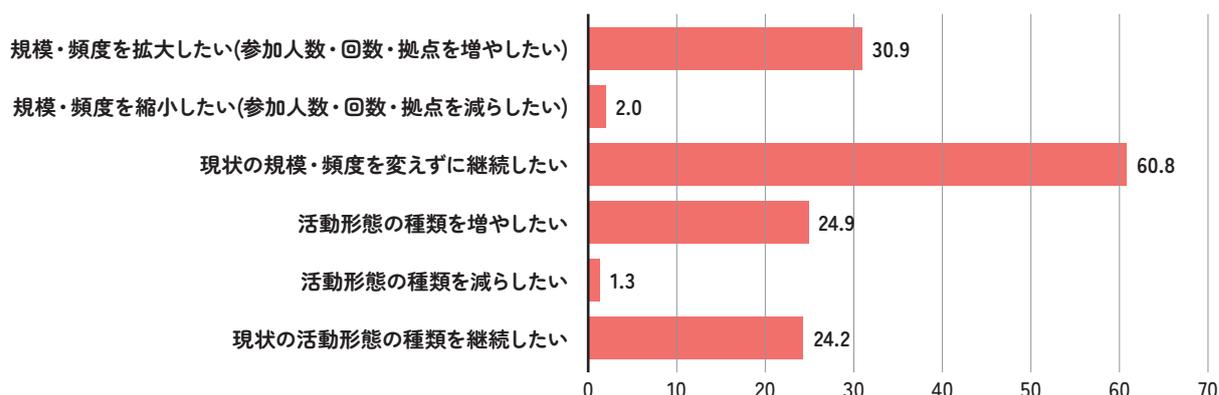
- ・ 回答者の71.7%が、年齢や属性などによる参加制限を設けていないと回答している。

■ (参考) 第2回こども食堂実態調査 (2023年9月19日～2023年11月8日、1,483件、複数回答)



11 今後の活動意向 (複数回答)

回答数: 1,302件 単位: %



アンケートからわかること

・活動の規模・頻度については、今度も変わらずに継続したいという回答が60.8%を占めた一方で、活動形態の種類については、増やしたい人と継続したい人の割合が同程度となった。

規模・頻度・種類を拡大したい

- いま実施している会食型の子ども食堂に加えて、食育として子どもたちと畑をやったり、習い事をするのが難しい家庭も参加できるような英会話教室や学習支援などをしていきたいと考えているが、構想の段階で実現は未定である。(茨城県)
- 開催回数を増やしたい、開催場所を増やしたい、魅力的なプログラムを増やしたいと考えていますが、資金もマンパワーも足りません。(山口県)
- 昨年度から参加者が増え、会場に入りきらなくなってきたため、新規の参加希望を断らざるを得ない状況が続いている。現在週に1回開催しているが、週に2回にして、参加者を分散させたい気持ちがあるが、スタッフの負担増を考えるとなかなか踏み切れない。(鳥取県)
- 南北に長い街で交通手段に問題があり活動拠点に地域的な偏りがある。そのため空白になっている地域に活動拠点を設けたいと思っている。(愛知県)

規模・頻度・種類を縮小したい

- 現在毎週木曜日と月2回の土曜で、月6回開催中。毎週開催のところの参加人数が増え、活動費が不足してきており、開催回数を減らすことを考えている。(埼玉県)
- 今までの活動を整理しより小規模で多機能にしたいので、食を中心とした活動や動員の多い活動を少し整理しようと考えている。困難な家庭や個人に寄り添うためのスタッフのスキルアップや環境の整備、時間の確保など現状では追いついていない為(香川県)

現状の規模・頻度・種類を継続したい

- こども食堂開催の頻度を増やしたいが現状のスタッフ数や会場確保を考えると現状維持が長続きの方法かと思えます。(埼玉県)
- こども食堂開始からまだ1年ということや、今年度からフリースクールを開始した事など、まだ地域の認知度も低く必要経費や人員の確保も大変な状態です。そのため今は現状の規模や活動形態を継続しつつ地固めの時期と考えています。(富山県)
- 規模、頻度を拡大するより、ボランティアの育成に力を入れて、もっと子どもに寄り添える人材を育成する。(大阪府)

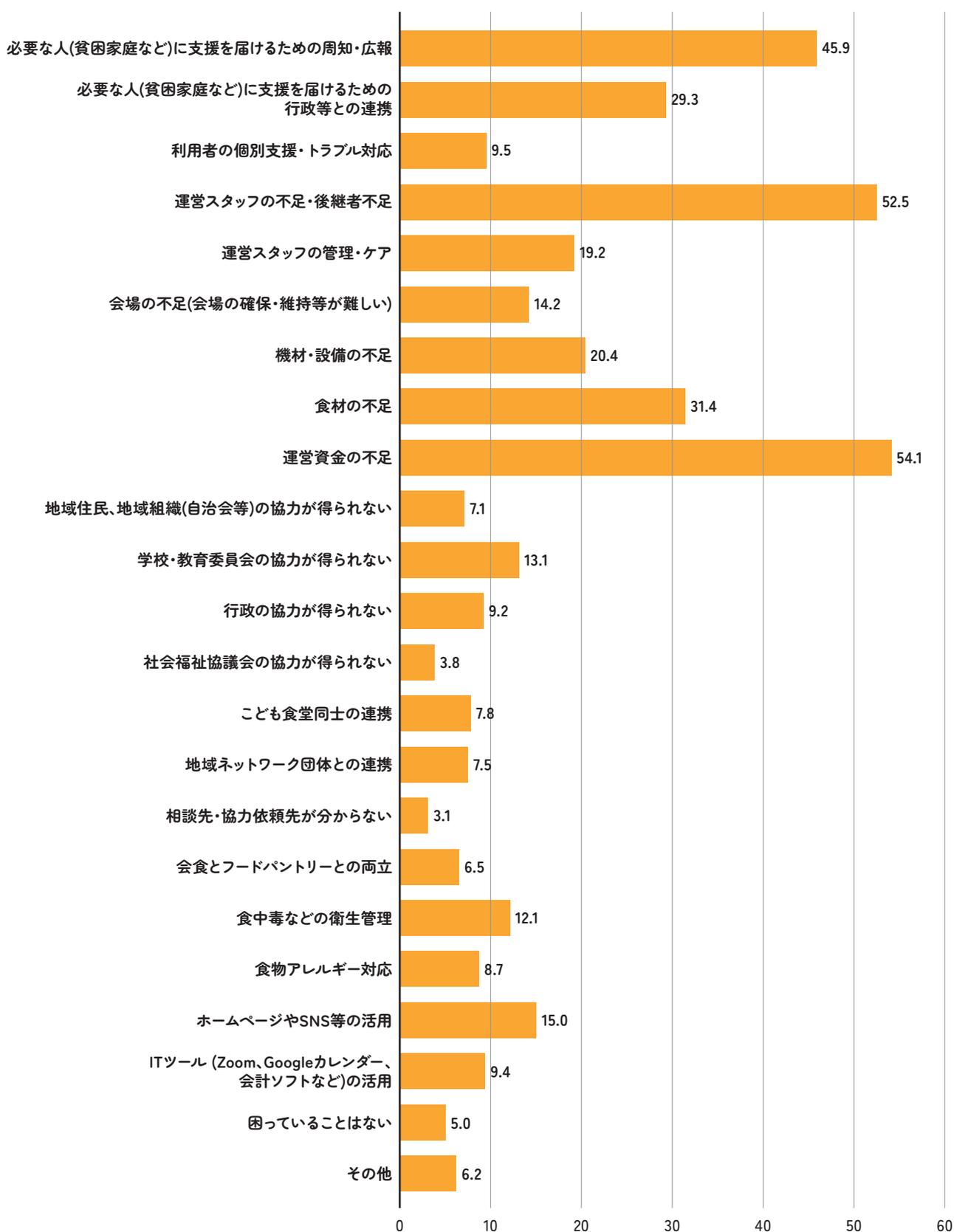
第2部

.....

こども食堂の 困りごととその対応

12 -1 こども食堂での困りごと (複数回答)

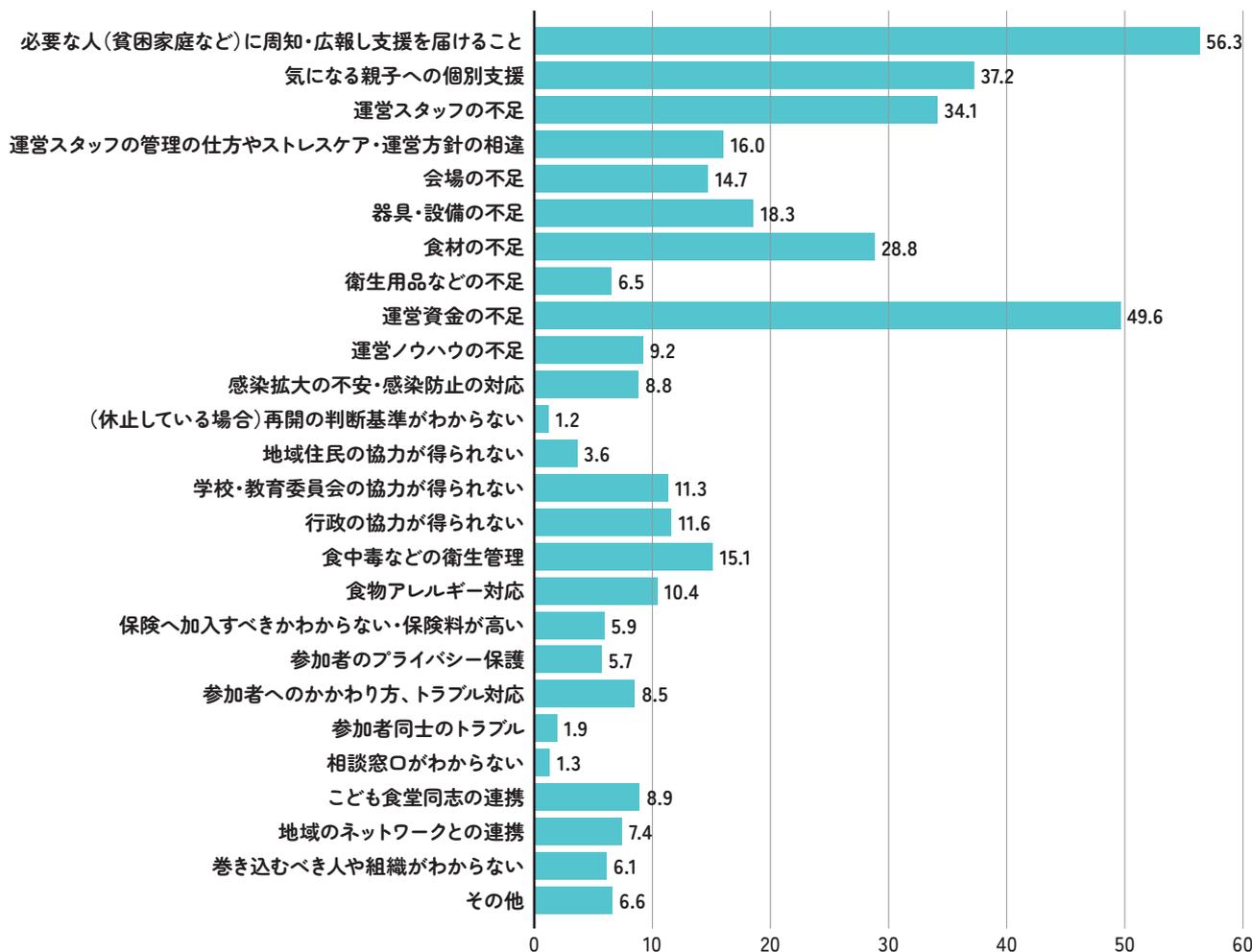
回答数: 1,302件 単位: %



その他: 保健所との連携、無償提供して頂いた物の保管場所、交通空白地帯があり、子どもが自分で来られない、農家さんの品物を搬入するための運搬支援等

12 -1 子ども食堂での困りごと

■ (参考) 第8回困りごとアンケート 2023年6月時点、回答数：742件 (複数回答)



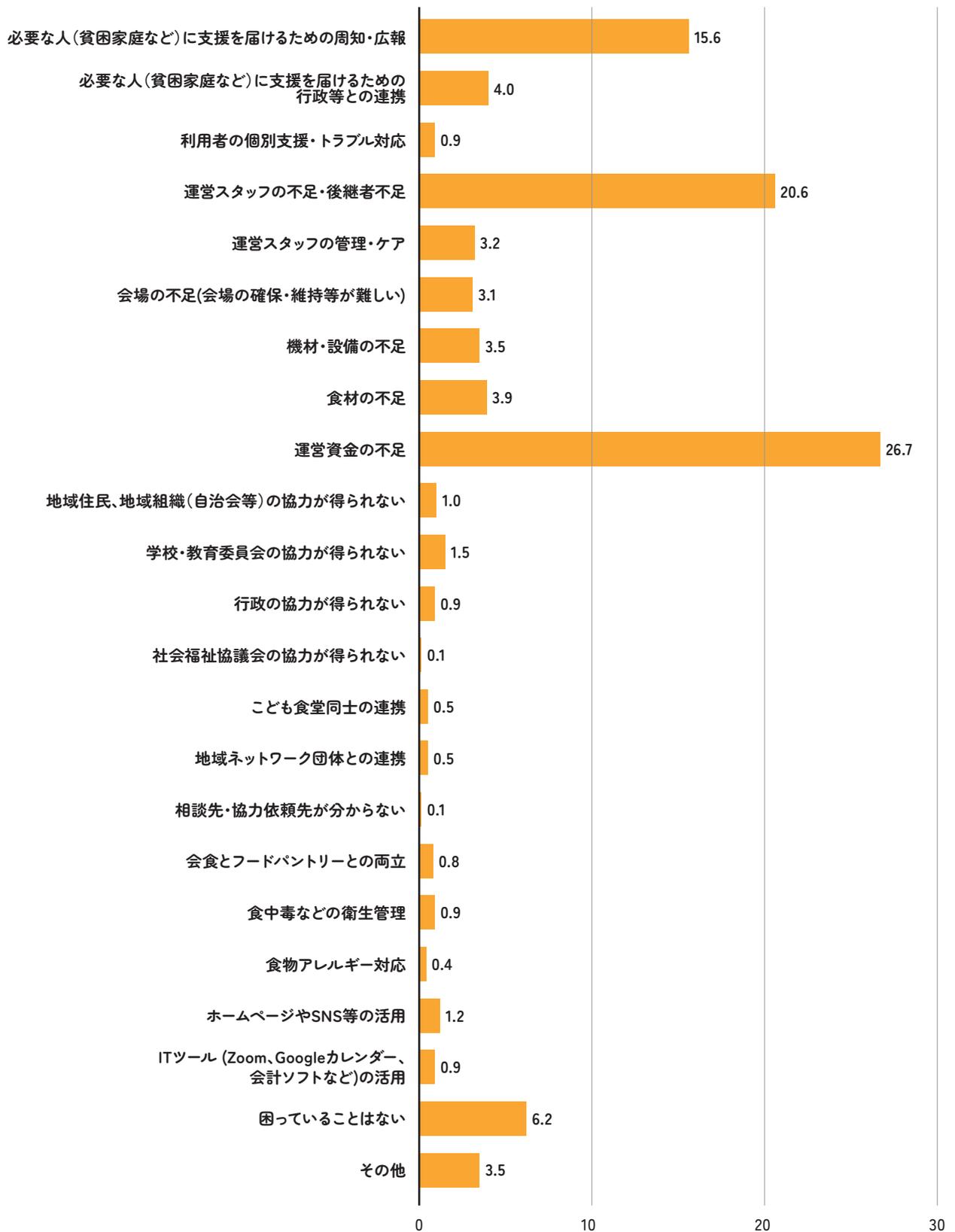
アンケートからわかること

- 今回の調査では「運営資金の不足」が54.1%と最も高く(2023年調査49.6%)、なかでも予算規模が大きくなるほど、また今後の活動について拡大志向がある場合ほど、「運営資金の不足」を回答する傾向が高かった。
- 次点の困りごとは「運営スタッフの不足・後継者不足」(52.5%)となり、今後の活動意向に拘わらず困っている結果となったが、中でも2019年以前に活動を開始した子ども食堂でその傾向が高かった。
- 3番目に多く回答された「必要な人(貧困家庭など)に周知・広報し支援を届けること」(45.9%)については、2023年以降に活動を開始した場合、予算規模が小さい場合、今後の活動の拡大志向がある場合ほど、困っている割合が高い結果となった。
- 4番目に多く回答された「食材の不足」(31.4%)については、活動開始年度や予算規模に拘わらずに困りごととなっている結果となった。また、「食材の不足」を挙げた子ども食堂について、以前(2022年ごろ)と比較して物資・食材の寄付状況を聞くと、「減っている」が56.5%を占めている。
- 2024年調査では、2023年調査時に比べて「運営資金の不足」および「食材の不足」の回答割合は増加した一方で、「必要な人に支援を届けるための周知・広報」(選択肢の文言は若干異なる)は減少した。
- 2023年調査で最も回答が多かった「必要な人(貧困家庭など)に周知・広報し支援を届けること」(56.3%)については、今回は「必要な人(貧困家庭など)に支援を届けるための周知・広報」「必要な人(貧困家庭など)に支援を届けるための行政等との連携」に分けてアンケートを実施した結果、それぞれ45.9%(第3位)、29.3%(第5位)と上位の回答になった。

注：詳細は「別添1 クロス集計表」を参照

12 -2 こども食堂での困りごと(最も)

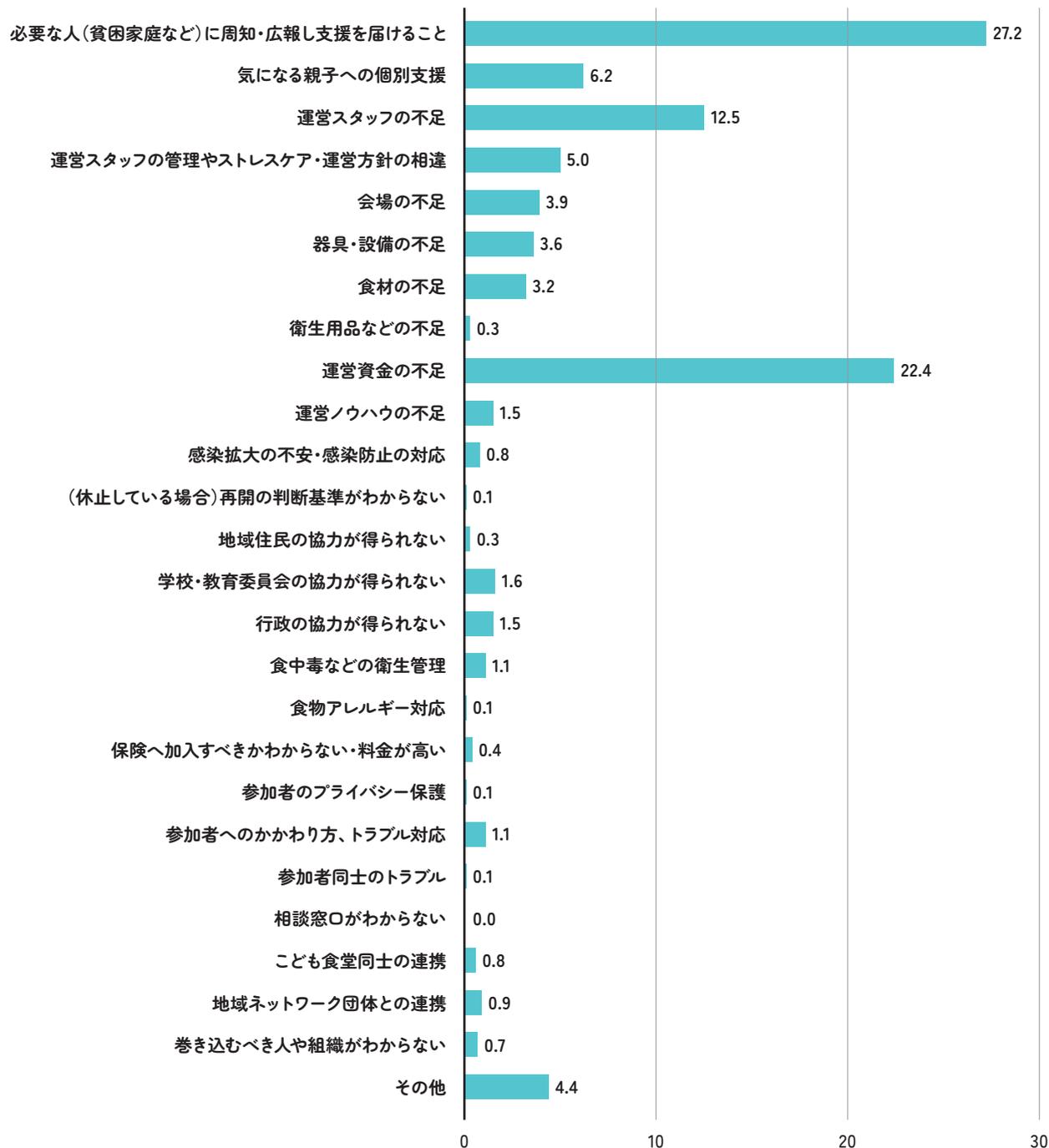
回答数:1,302件 単位:%



その他: 集客、来てくれる人数が予測できない、保護者と連携できない家庭がありケガなど緊急事態の対応が心配、車両を出してくれるスタッフの不足、理解を得られない人達からの妨害・嫌がらせ、会場の無理解、天候(特に風雨)、パソコンが使えない、食材や備品の保管場所不足

12 -2 子ども食堂での困りごと（最も）

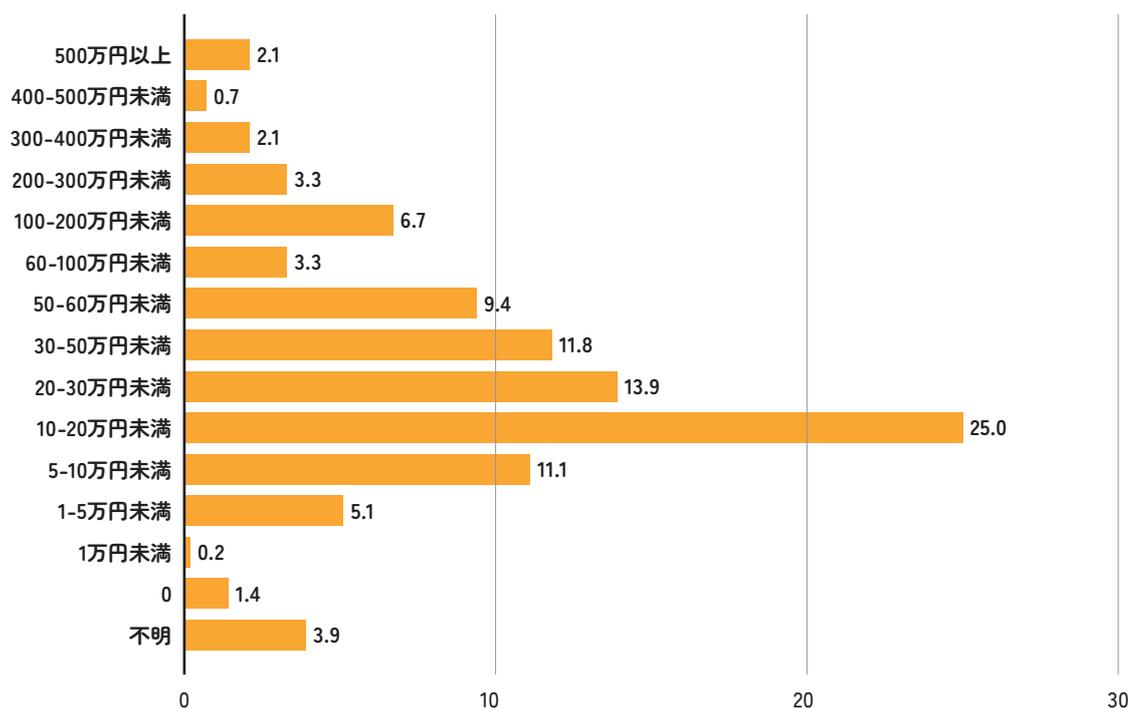
■（参考）第8回困りごとアンケート 2023年6月時点、回答数：742件（複数回答）



アンケートからわかること

- ・今回の調査では「運営資金の不足」が26.7%と最も高くなり（2023年調査22.4%）、4分の1以上が最も困っていることとして回答した。
- ・次いで、「運営スタッフ・後継者不足」が20.6%、「必要な人（貧困家庭など）に支援を届けるための周知・広報」が15.6%となっている。

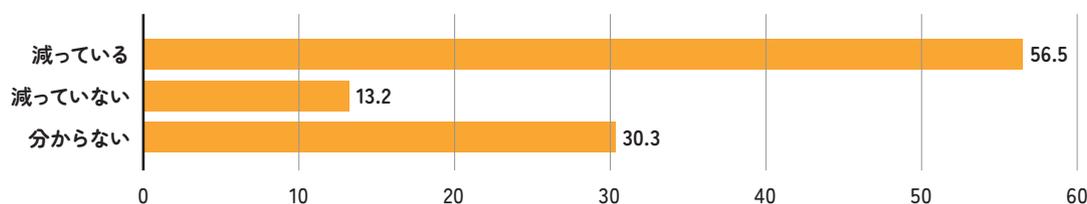
13 困りごと①運営資金不足について、不足している金額 回答数：583件 単位：%



アンケートからわかること

- ・運営資金の不足を感じている人のうち、年間の不足金額としては10万円以上20万円未満の回答が最も多く、25.0%となった。
- ・一方で、100万円以上が不足しているという回答も14.8%を占めた。

14 -1 困りごと②食材の不足について、物資・食材の寄付は減っているか 回答数：409件 単位：%

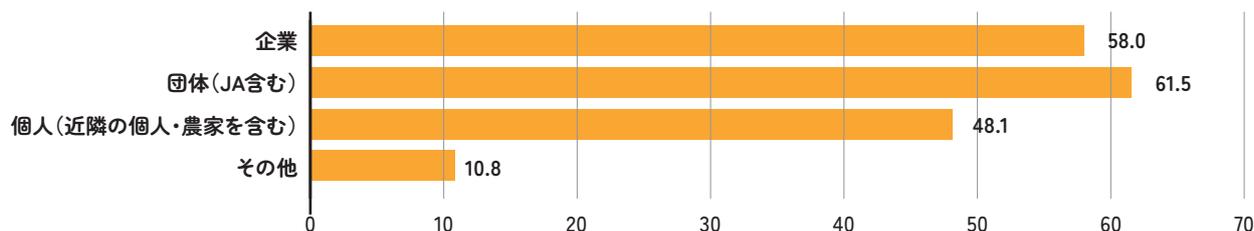


アンケートからわかること

- ・以前(2022年ごろ)と比較して、物資・食材の寄付が減っていると感じるとの回答が56.5%を占めた。

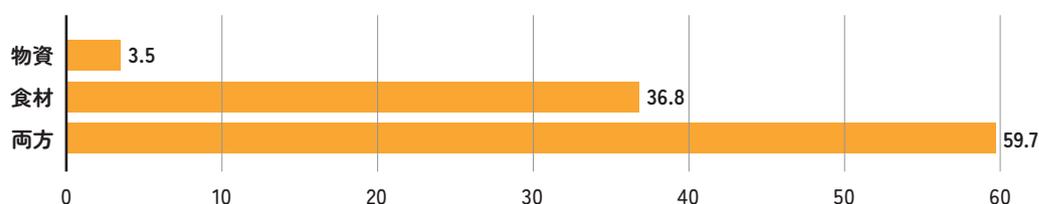
14 -2 困りごと②食材の不足について、 どこからの物資・食材の寄付が減っているか

回答数：231件 単位：%



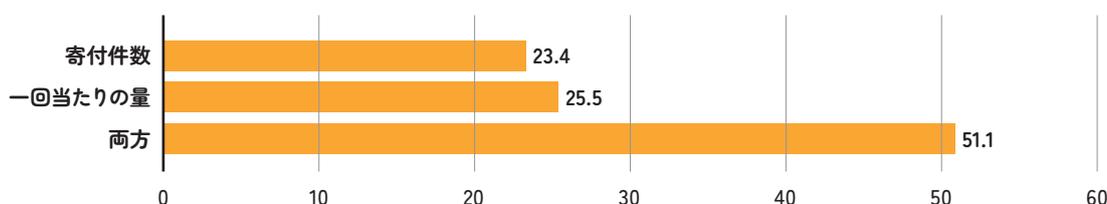
14 -3 困りごと②食材の不足について、 寄付が減っているのは何か

回答数：231件 単位：%



14 -4 困りごと②食材の不足について、 減っている寄付の形態

回答数：231件 単位：%

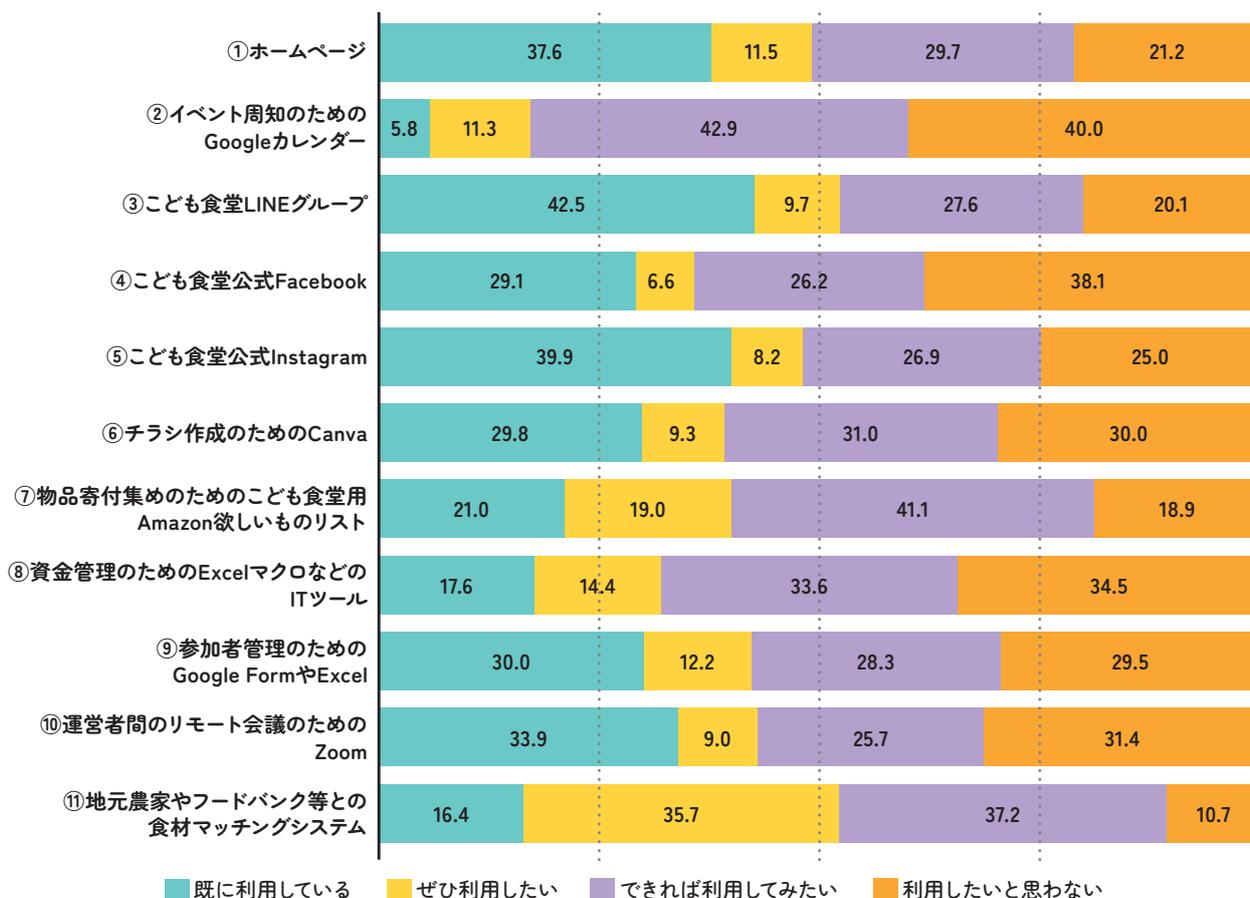


アンケートからわかること

- ・以前(2022年ごろ)と比較して、企業や団体からの寄付が減少しているという回答が5割以上を占めた。
- ・寄付の内容については、物資・食材ともに寄付が減っているという回答が59.7%を占めた。
- ・寄付の形態については、寄付件数・1回あたりの量ともに寄付が減っているという回答が51.1%を占めた。

15 困りごと③ITツールの活用について、 利用しているITツール

回答数：1,302件 単位：%

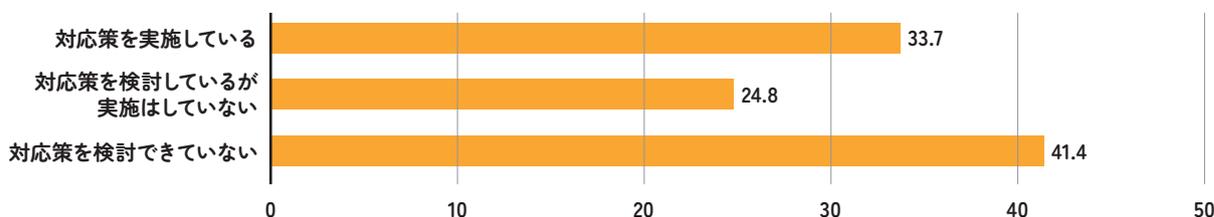


アンケートからわかること

- ・ITツールについては、それぞれ「できれば利用したい」という回答が概して高い。特に、Googleカレンダー、Amazonほしいものリスト、食材マッチングシステム、LINEグループ等のニーズが高い結果となった。

16 困りごとへの対応策

回答数：1,221件 単位：%



アンケートからわかること

- ・困りごとに対して、対応策を実施しているという回答が33.7%となった一方で、対応策を検討できていないという回答は41.4%となった。

【具体的対応策】

<広報>

- ・SNSの定期更新、広報紙の配布(大分県)
- ・社会福祉協議会や区の窓口に、子ども食堂の案内を置いてもらっている。他の子ども食堂から紹介してもらっている。(東京都)
- ・学校の管理職や民生委員、児童クラブの職員に手助けが必要な子どもたちを子ども食堂に参加するよう声かけをしてもらっている。(宮崎県)

<資金・食材確保>

- ・お金ではなく食料を集めたり募金箱を置いている(青森県)
- ・助成金をまめにチェックして、申請するようにしている。(埼玉県)
- ・クラウドファンディングを行い寄付を集めている。独自に絵本の販売などをして、寄付に頼らない収益を得るようにしている。(北海道)
- ・シンカブルでのマンスリーサポーター募集のページ作成と三つ折りちらしの作成(栃木県)
- ・スタッフの方々にお願いして、食材集めの営業をしていただいています。(鹿児島県)
- ・ふるさと納税の活用 企業への寄付金依頼(佐賀県)
- ・圏域の地域包括支援センターと連携し、地域の農家さんや家庭菜園をされている方に食材提供の呼びかけ(お願い)を始めています。また、家庭菜園等を通じて、高齢者のフレイル予防や役割づくりの取り組みを進め始めています。(熊本県)

<人材確保>

- ・ボランティア事前説明会の開催頻度を増やすように努めています(月1回→3週間に1回程度)(神奈川県)
- ・「こども食堂ボランティア説明会」を開催したり、社協や活動センターに張り紙をして頂いたりしております。(埼玉県)
- ・NPO支援センターや高校生、大学生などに協力をお願いしている(宮崎県)
- ・ボランティアとしての相性など見極めながらいろいろな方に関わってもらっている(東京都)
- ・大学にサークル登録をし、授業内でボランティアを集められるようにしている。SNSおよび募集サイトにてボランティアの募集をしている。(愛知県)

<食品衛生>

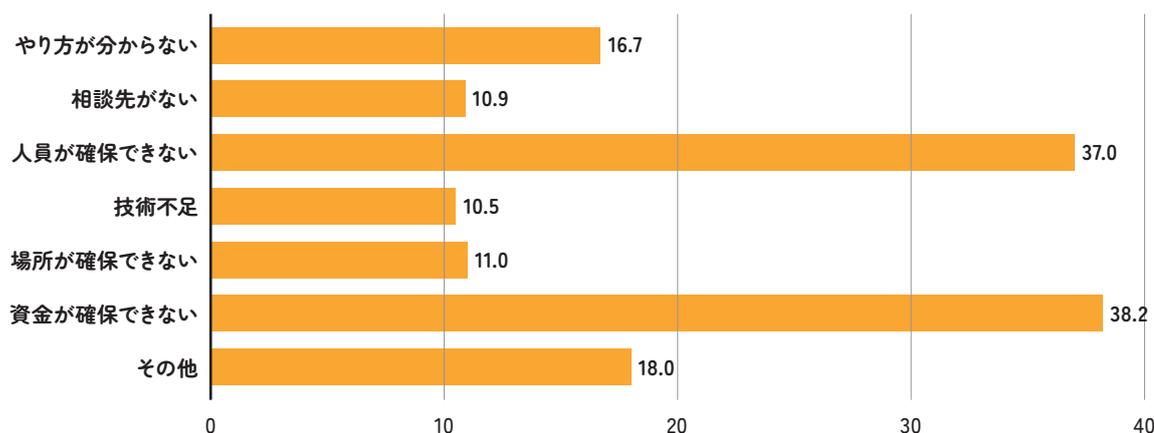
- ・スタッフに、食品衛生管理責任者講習会に参加してもらっている。(千葉県)
- ・食中毒・衛生管理保健所等に問い合わせ・指導を受ける又研修会開催計画(大分県)
- ・保健所の助言を聞いたり、学習したり努力はしているのですが、食中毒は予期できず十分に気を付けるに留まっています。(奈良県)

<行政連携>

- ・行政と連携をとり、対象者のケアや貧困度の情報を共有することで家庭に合わせたの支援をするようになれば、たくさん物資をそろえなくても供給ができると考えています。(沖縄県)
- ・行政機関に当団体の活動内容を知っていただき、必要なご家庭へアナウンスしてもらっている。子ども家庭庁の「ひとり親等の…」に応募し、できるだけ、アウトリーチの機会を作るようにしている。(神奈川県)

17 困りごとに対応するうえでの障壁（複数回答）

回答数：809件 単位：%



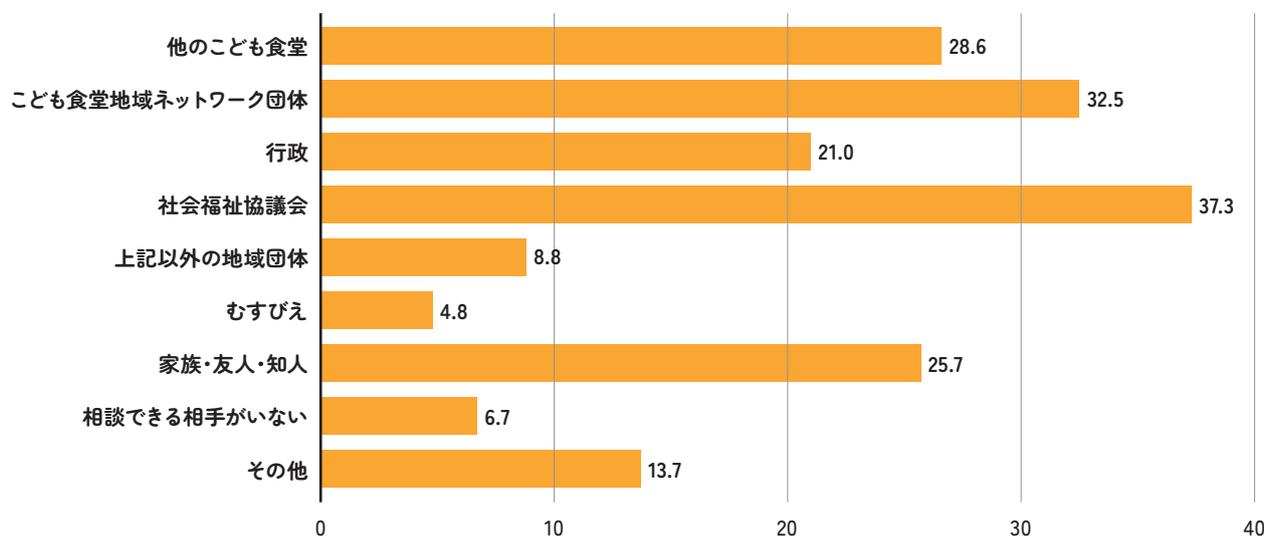
その他：時間がない、今後に向けた後継者がいない、理解が得られないなど

アンケートからわかること

- ・困りごとに対して対応するうえでの障壁としては、「資金が確保できない」が最も多く38.2%、次いで「人員が確保できない」が37.0%となった。

18 困りごとについての相談相手（複数回答）

回答数：1,302件 単位：%



その他：運営団体内部のスタッフ・ボランティア、地域の小学校、他のNPOなど

アンケートからわかること

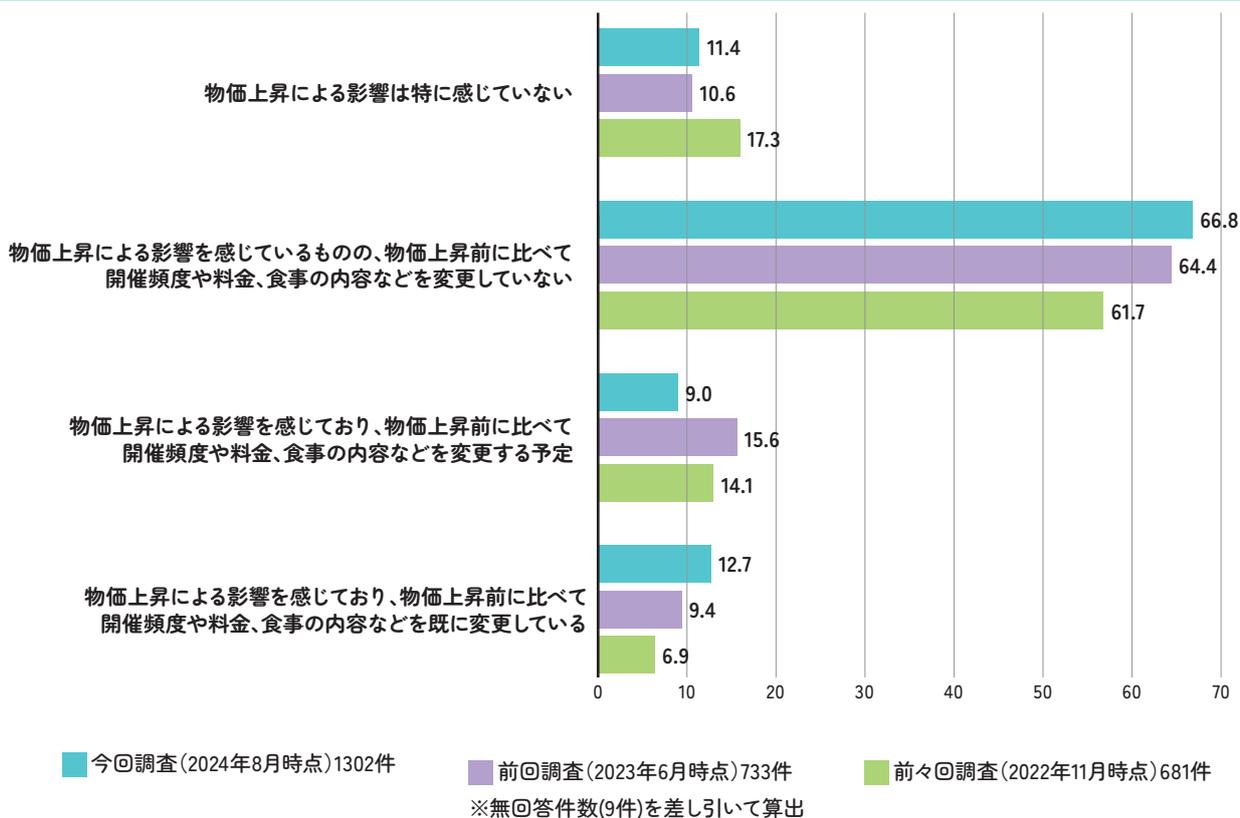
- ・困りごとについての相談相手としては、「社会福祉協議会」が最も多く37.3%、次いで「子ども食堂地域ネットワーク団体」が32.5%となった。
- ・一方で、「相談できる相手がない」という回答も6.7%となっている。

第3部

.....

物価上昇による こども食堂への影響

19 子ども食堂や食材配布を行うにあたり、 昨今の物価上昇の影響

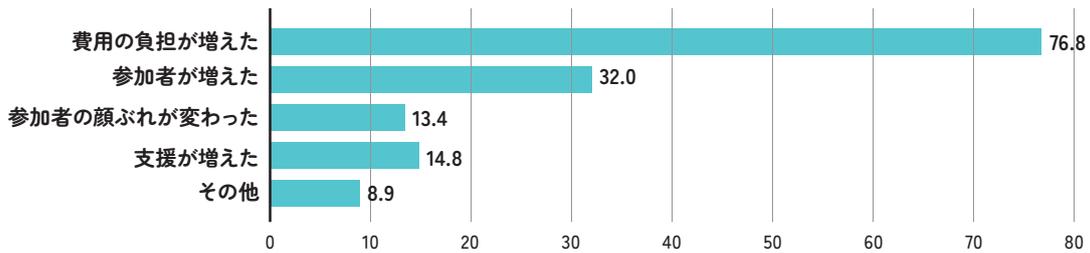


アンケートからわかること

- ・物価上昇の影響を感じているとの回答が88.5%を占め、前回アンケートの88.3%と同水準となった。
- ・一方で、「物価上昇による影響を感じているものの、物価上昇前に比べて開催頻度や料金、食事の内容などを変更していない」という回答が全体の66.8%となっている。
- ・前回アンケートと比較すると、「物価上昇による影響は特に感じない」と「物価上昇による影響を感じているものの、物価上昇前に比べて開催頻度や料金、食事の内容などを変更していない」は大きな差異はない。一方で、「物価上昇による影響を感じており、物価上昇前に比べて開催頻度や料金、食事の内容などを変更する予定」は減少し、「物価上昇による影響を感じており、物価上昇前に比べて開催頻度や料金、食事の内容などを既に変更している」は増加している。

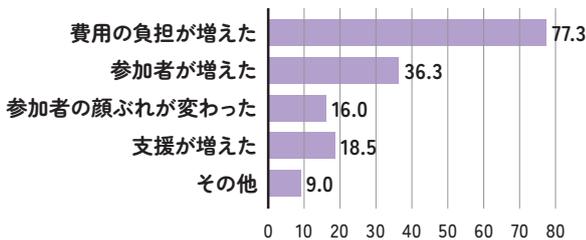
20 物価上昇による変化 (複数回答)

回答数:1,001件 単位:%

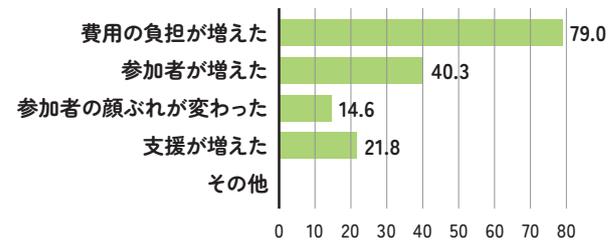


その他: 支援が減った、支援内容が変わった、おかわりする子が増えた、高齢者とのつながりがより濃くなった、食材購入先の変更・フードバンクの利用、メニューの工夫など

■ (参考) 第8回困りごとアンケート 2023年6月時点 回答数:664件 (複数回答)



■ (参考) 第7回困りごとアンケート 2022年11月時点 回答数:563件 (複数回答)

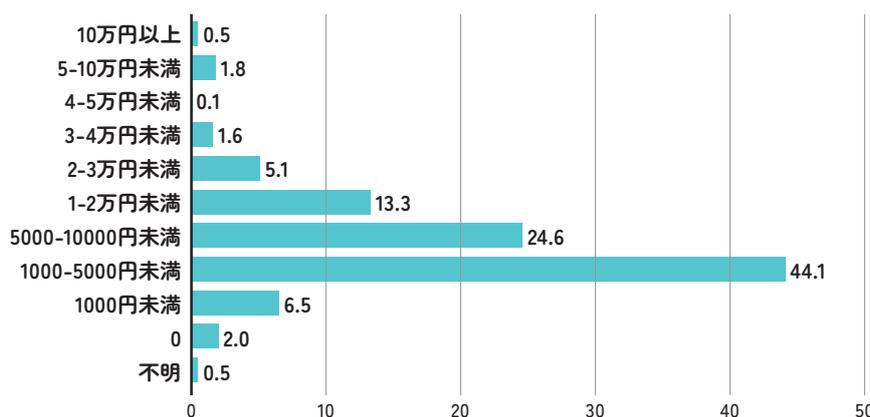


アンケートからわかること

- ・物価上昇の影響の内容としては、費用の負担が最も多く76.8% (2023年度調査77.3%)、次いで「参加者が増えた」が32.0% (2023年度調査36.3%)と前回調査と同様の傾向。
- ・一方で「支援が増えた」「参加者の顔ぶれが変わった」という回答は減少傾向

21 物価上昇により増加した1回あたりの費用の金額

回答数:769件 単位:%



a) 1回開催あたりの増額影響

○中央値:4,000円

b) 1回開催あたり1人分の増額影響

会 食 ○中央値:125円

フードバントリー ○中央値:101円

■ (参考) 第8回困りごとアンケート 2023年6月時点 回答数:513件

a) 1回開催あたりの増額影響 ○中央値:4,000円

b) 1回開催あたり1人分の増額影響 ○中央値:75.0円

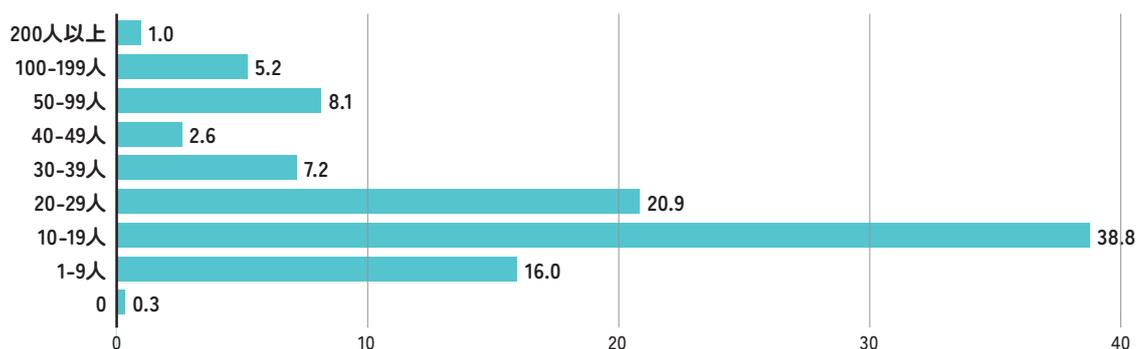
■ (参考) 第7回困りごとアンケート 2022年11月時点 回答数:382件

a) 1回開催あたりの増額影響 ○中央値:3,000円

b) 1回開催あたり1人分の増額影響 ○中央値:66.7円

22 物価上昇による参加者の1回あたりの増加人数

回答数: 307件 単位: %



○中央値: 15.0人

■ (参考) 第8回アンケート 2023年6月時点 回答数: 231件 ○中央値: 50.0人

■ (参考) 第7回アンケート 2022年11月時点 回答数: 205件 ○中央値: 20.0人

(注記) 回答データの中には一見すると外れ値のようなデータも含まれていた為、平均値ではなく中央値を採用。

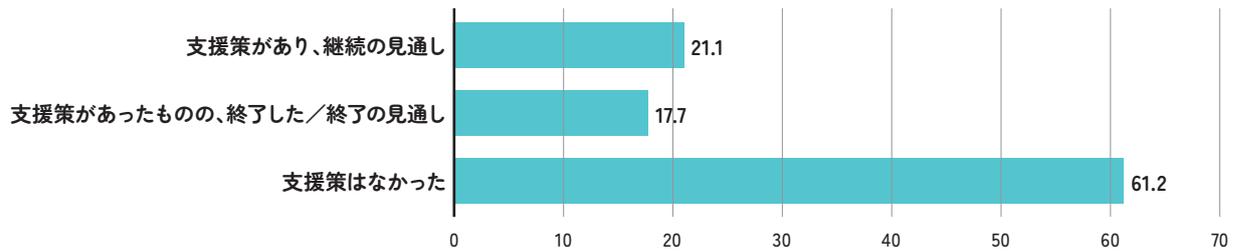
23 参加者の顔ぶれの変化

回答数: 126件

- ・生活困窮家庭が増えた(東京都)
- ・高齢独居の参加が増えた(千葉県)
- ・一人親世帯、多子世帯数が増えました。(千葉県)
- ・近隣校区含め新規参加者が増えた。(福岡県)
- ・ひとり親世帯 不登校世帯 乳幼児世帯 父子家庭も増えた(岐阜県)
- ・多子家庭、ひとり親家庭はもちろんですが、両親が揃っていて子どもが2人以上のご家庭が増えました。(愛知県)
- ・父親も加え一家での参加が目立ってきた。(福島県)
- ・ひとり親家庭もそうだが、鍵っ子の子も達もお腹が空いたら子ども達同士で教え合ってくることも増えた。隣町から支援を求めて来る保護者も多い。(群馬県)
- ・口コミでどんどんひろがっているが、ひとり親世代とは限らない(長野県)
- ・SSWからの紹介や行政からの紹介が増えた(沖縄県)
- ・極端な生活困難ではない家庭が来るようになった。フードパントリーでは、失業、病気による希望者が増えている。(埼玉県)
- ・今まで来られていない家族連れ、新規の方が増えてきた(宮崎県)

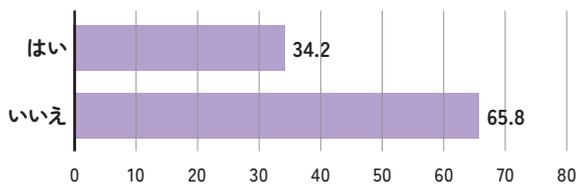
24 物価上昇に対する行政からの緊急支援

回答数：1,302件 単位：%



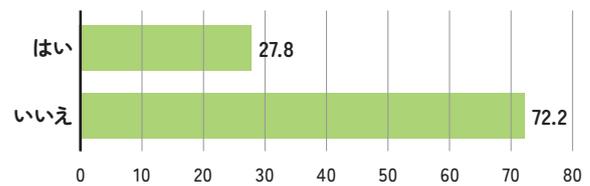
■ (参考) 第8回困りごとアンケート

2023年6月時点 回答数：742件



■ (参考) 第7回困りごとアンケート

2022年11月時点 回答数：681件



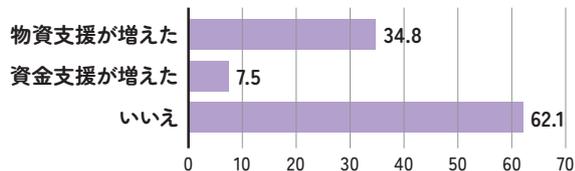
25 物価上昇に対する民間からの支援

回答数：1,302件 単位：%



■ (参考) 第8回困りごとアンケート

2023年6月時点 回答数：742件



■ (参考) 第7回困りごとアンケート

2022年11月時点 回答数：681件

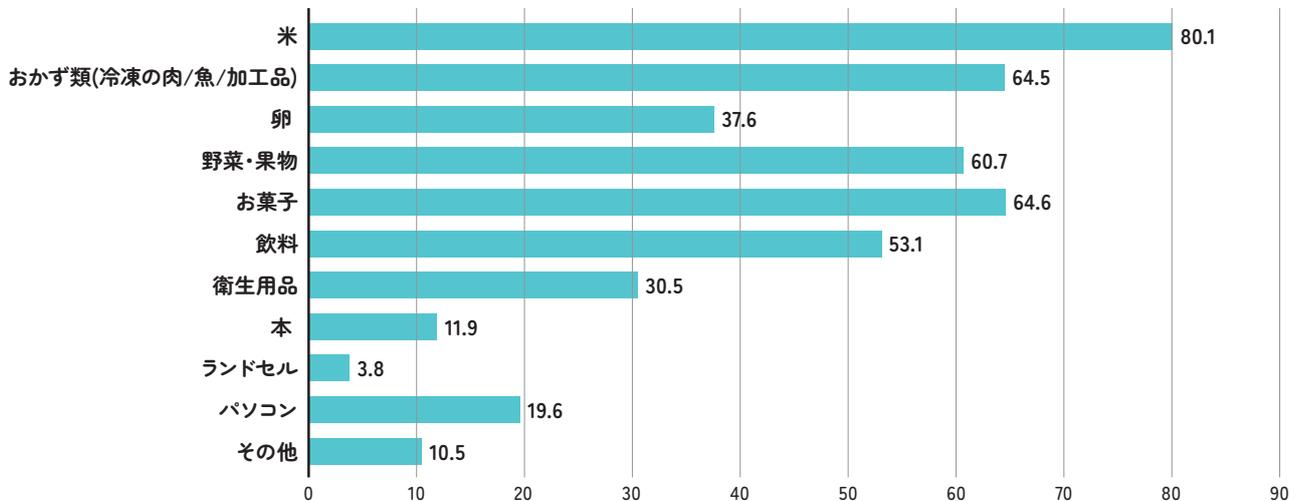


アンケートからわかること

- ・物価上昇に対する支援としては、行政・民間ともに支援がなかったと回答していることも食堂が6割を超えている。
- ・物価上昇に対する支援があったという回答者のうち、「終了した／終了の見通し」は、行政からの緊急支援については17.7%、民間からの支援は6.5%という結果となった。

26 食材・物品の寄付として、もらうと嬉しい食材・物品 (複数回答)

回答数：1,302件 単位：%



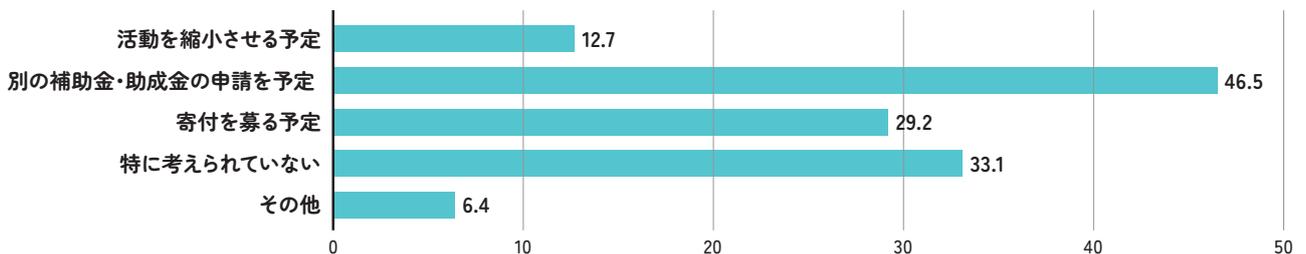
その他：調味料、常温保存のレトルト食品、冷蔵庫、紙コップやお弁当容器など消耗品、おもちゃ、学用品など

アンケートからわかること

- ・寄付してもらうと嬉しい食材・物品として第一位は「米」の80.1%となった。
- ・次いで、「お菓子」が64.6%、「おかず類(冷凍の肉/魚/加工品)」が64.5%となった。

27 物価上昇対策支援が終了した場合、 物資や資金を確保する方法(複数回答)

回答数：1,302件 単位：%



その他：自己負担を増やす、お弁当販売やバザーなどイベント開催により収益を確保、参加費を増やす、就労する、など

アンケートからわかること

- ・物資や資金を確保する方法としては、補助金・助成金の申請が最も多く、46.5%だった
- ・特に考えられていないという回答も33.1%となった。

第4部

.....

活動に関する
困りごと・今後の活動志向
(自由記述)

28 活動に関する困りごと

① 運営資金などの不足

〈資金・物資〉

- 週4回開催するための会場費用・食材費・水道光熱費など継続していくための資金がありません。(福岡県)
- フードパントリーで配る食材などのご寄附が思うように集まらないので、購入して配っています。その資金が足りないので、配る食材が少ないと感じています。(東京都)
- 大人の参加者から協力金300円を頂戴しているが、会場費や保険料で無くなってしまい、食材に費用がまわせない。寄付ももらうがそれだけではまかなえないこともあります。助成金の申請もしていますが、定期的な予算として行政から助成してもらえないかと話してもなかなか難しいです。(愛知県)
- 食材等の支援品が減っている中、3カ所の子ども食堂を運営しており、食材調達や設備の修繕などの費用がかかるため、ギリギリの運営である。その一方で子ども食堂の認知度が上がり、ひとり親家庭からの問い合わせが増えていくが、食料などのお渡しが困難になっている。(愛知県)
- 運営資金の不足。会場の賃料、水道光熱費、ボランティアスタッフ謝金、機材(調理器具や備品消耗品)、事務用品費、周知広告チラシ作成などの管理的経費等の表には見えない経費の確保が難しい。ボランティア確保ができず開催準備や支援(調理、見守り等)で追われて、助成金の申請に手が回らず悪循環に陥りやすい。繋がった子どもたちのために継続開催を行うために自己資金を入れて運営している状況。(沖縄県)
- 最近になって、食材の寄付がなくなり、食材配付用の大量に米がなくなり購入を余儀なくされている。その他も底をつき、ついにお休みにせざるを得ない。(愛知県)
- 今年度になってから食材等の物資の提供がほぼないに等しくなりました。特にお米の提供がなくなりその都度助成金を使いながら切り崩していますが、なかなか運営が厳しい状況になっています。その反面、利用者が増えていく一方なので継続した運営ができるかどうか不安になってきました。(福島県)
- 米が高くなってきており、フードパントリーでお配りする米を調達すると、それだけでお金がかかってしまう。ニーズは大きいのに、1カ月のお米代が馬鹿にならない。(宮城県)

〈設備費〉

- 古民家で運営していますが、電気系統やキッチンのリノベ資金が必要です。(宮崎県)
- アウトサイドでの運営ですので、メンテナンスにコストがかかります。屋根の補修やテントの補修、倉庫や机などのペンキ塗り替えや補修など。土なので、砂利や砂を定期的に入れることなど、結構かかっています。(大阪府)
- ①食材や消耗品資金が最も不足しているが、新規機材購資金もない。②調理機材の老朽化対応が出来ないため、個人機材の借用などで対応している。(大阪府)
- 調理をするボランティアの健康管理面で、熱中症対策として厨房のエアコン設置を検討しており、必要経費の捻出で困っている。(愛媛県)
- 食材を保存する場所や冷蔵庫がなく、寄付していただいても、保存場所に困る。(滋賀県)

〈人件費〉

- 人件費の確保です。ほとんどの助成金は人件費に充てられず、ボランティア謝金が認められていたとしても短期間のため、運営継続が毎年課題になります。(沖縄県)
- ほとんどスタッフの善意に頼って活動しているので、心苦しい。薄謝でも出せればと思う。(福島県)
- 理科実験教室、夏休みの学習強化、夏祭りや花火イベントなどイベントを居場所支援でも実施するようになり、講師代、こどもへのギフトなど思った以上にお金がかかります。また、室内環境をよくするために設営費にもお金がかかっています。(東京都)

〈助成金、企業支援、補助金〉

- 運営資金(主に食材消耗品購入)も本年度は企業支援を受けられたが、来年度はどうなるかわからないので、不安である。(和歌山県)
- 参加者全員無料にしているため、助成金がないと運営できないが、行政の助成金の募集決定・開始が遅いので、常に民間の助成金を探し回っています。また、新規開設の助成金が多いが、継続の助成金が少なく、あっても複数回申請できないなどの制約があり困っています。(奈良県)
- 食材やパントリーなどの支援物資に関しての助成金はありませんが、家賃や人件費が対象になる助成金が少なく、継続することが困難な状況です。(富山県)

〈物価上昇〉

- 景気低迷による支援や協賛(企業の協賛額等)の減少に食材等の物価高騰が拍車を掛けている。会食形式の子ども食堂に比べ、フードパントリーやアウトリーチ中心で活動する組織への助成は、件数/金額ともに少ないと感じている。(福島県)
- 物価高騰で、食材費用が倍近くになった。(茨城県)

〈会場の不足〉

- 施設利用にあたり、公会堂のような場所だとその地域の人しか使っては行けないといった意見があるので、使える場所を探すのが大変です(兵庫県)
- 地域に調理設備など備えている会場が少なく、市の条例で月に1度しか使えない様になっている。食材など保管出来る場所や冷凍庫・お米保管庫などが無いので、大量に頂くと嬉しい反面、保管に困る。(三重県)
- 会場の中で、食べる場所と子どもたちの居場所、学習支援の場所などを分けられるようなスペースがなく、かつ、地域の自治会館なども予約が埋まっており利用ができない(大阪府)

②運営スタッフ・後継者不足

- スタッフが高齢者であり、このままではスタッフが揃わなくなる。子育ての主婦の参加が時間的に難しく、若い人を雇うにも支払う費用が捻出できない。(兵庫県)
- 2017年の開始より、約8年が経過しました。参加者も毎回100名を超える程に、発展してきました。一方、スタッフも高齢化したり、別の仕事や活動分野が広がり、後継者を探すことが大切になりつつあります。(宮崎県)
- スタッフが高齢になっており、後継者(特に代表、会計等の三役になってくれる人がいない。)(静岡県)
- 町内の高校生、大学生にもボランティアに参加してほしいが、周知方法やどのようにしたら接点を持てるのかわからないのが課題。(埼玉県)
- 運営スタッフは基本的に子育て中のママたちで行っているため、どうしても家庭優先になり、個々の仕事量に差が生じてしまっています。そのため、頑張ってくれている人からは不満の声が上がってしまうことがあります。また、自分も含め、夏休みなどの長期休みは自分の家庭の方で手一杯になってしまって、本来であれば長期休みこそこういう取り組みが必要な人が増えていると思うのですが、対応できない状況にあります。(青森県)
- ボランティアとして参加の意思と思いはありますが、企画運営、また申請書や行政、企業とのやり取りを担う人材の不足を感じている。皆ボランティアかつ、未だ仕事や家庭のことが多い世代のボランティアも多いのため、あまり作業が重くなりすぎて疲れてしまわないように配慮することが大変。(兵庫県)
- スタッフが全員子育て中のため、調理している間の子どもたちのお世話、見守り役の不足。(島根県)

③必要な人（貧困家庭など）に支援を届けるための周知・広報や行政との連携

〈必要な人に情報が届かない〉

- 活動をもっと地域の方に知ってもらって利用してもらいたい。(福岡県)
- 本当に困っている子やご家庭に支援の手を差し伸べたいが、具体的にどうしたら良いのか、またどこまで支援が可能なかがよく分からない。(山口県)
- 不登校児や貧困家庭などの支援に繋がりたいが、アプローチの仕方が分からない。高齢者にも参加を促したいが、地域のコミュニティセンターとは一線を画すところがあり、なかなか相容れず、sns中心の広報のため、地域の高齢者には情報が届いていないと感じる。(茨城県)
- 地方ではまだまだ、子ども食堂の理解が進まず、今だにこども食堂は貧困家庭の子供が行くところ、という理解にとどまっています。このため子ども食堂に来られた子供が貧しい子と揶揄され、悲しい思いをしています。こども食堂が地域の子どもたちの居場所作り、ふれあいの場所としてのイメージ作りを広報していく必要があります。(愛知県)
- 地域、市、社協などの協力または地域の新聞などにチラシを載せても参加者が人数に満たないときがある。月ごとに各イベントを行ったり、食事も調味料にこだわった手作りの食事を提供し食育を兼ねて行っているが参加者が少ないことに難しさを感じている。(岩手県)

〈学校、行政、地域組織との連携〉

- 市民ボランティアの活動であるため、運営者は無償で活動をしています。現在の代表は社会福祉を自営業でしているので活動に融通が付きやすく、学校や行政、その他関係団体との連携にフレキシブルに対応することができます。ただ、子ども達が置かれている環境が複雑化してきている状況下で「これは市民ボランティアの域を超えているな」と感じるが増えています。専門職と連携していくには人件費がかかります。市民ボランティアでは賄えない部分(個別支援、経理関係、広報関係)を外注するための費用の必要性を感じます。(千葉県)
- 現在は参加していただいている世帯を中心に貧困家庭などのお知り合いの方へ口コミで周知を促している状態ですが、なかなかそのような世帯とつながることが難しく、世帯におかれましても自ら貧困家庭ですと名乗ることも難しい現状から市政を通じそのようなご家庭に周知をしていただけるようにしていただけると非常に助かります。(愛知県)
- 家庭の困難な状況を知る手段が個人情報もあり直接的にはないため、行政がこちらの活動をもっと積極的に知ってつなげる役割をしてほしいと思ってしまう。(佐賀県)
- 移動式のためいろんな地区を回る。固定会場での開催ではないため周知が弱い。小学校でチラシを配らせて欲しいが、教育委員会の後援を取らないと不可で、後援を取る手間と時間の余裕がない。(福井県)
- 本当に支援が必要な子供達に支援が届けられるよう、学校との連携を取りたい。(千葉県)
- 地域で活動の輪を広げたいが、協力いただける保護者や地域の方々の参加が少ない。(佐賀県)
- 運営資金の不足は自治体の、協力があれば解消できるが、自治体のが子どもの居場所の必要をそこまで重視していないこと。地域のコミュニティスペースへの認識の違いが課題です。(鹿児島県)

〈IT ツールなどの活用〉

- 自分のパソコンがない為、チラシを作ったりできない。助成申請もしたくてもパソコンを借りて、してるのでとても時間がかかる。公式LINEの月額が高くて こども食堂で1.2.3.4と4つに分けてとても大変。(和歌山県)
- ライン公式アカウントも月3通ぐらいで5,000円の有料へ制限かかるのでその辺も。(福井県)
- ホームページの作成をしたいが、スキルと時間がたりない。(福岡県)
- ホームページの作成や、事務的処理などができる人材は少ない。若い力が欲しいが若い人ほど忙しい。(和歌山県)

④利用者の個別支援・トラブル対応

- 利用者同士のトラブルによりスタッフが疲弊してしまう。(滋賀県)
- 参加者に注意事項等をお知らせしてもうまく伝わらない、ルールを守っていただけない等が増えている。保護者が外国人の方で言葉の壁や文化の違い等があったり、一般的な常識が全く通用しなかったり。具体的には、無断キャンセル、開始時間に平気で遅れる、こどもの人数分予約して当日来れないこどもの分はその場でキャンセルする、お釣りのないようお願いしても毎回お釣りを要求、こども食堂に犬を連れてくるなど。スタッフは参加者への注意喚起やトラブル解決で疲れてしまう。(東京都)
- こちら側から見て困ってそうだなと思っても、あちら側から助けを求められないと支援のしようがない。どの程度生活に介入できるのか分からない。(埼玉県)
- 何年も続けていると、具体的に困りごとを抱えた子供や家庭との接触があり、どのように問題を解決できるのか悩む。進学や運転免許取得のための支援の在り方など、勉強不足も奨学金などで、なかなか方法がわからない。(埼玉県)

⑤その他(感染対策など)

- 都度、保健所に行き食中毒や衛生面に関する助言を受けていますが、提供するメニューの決定やその調理・食品の提供について、万が一のことを考えると不安で仕方ありません。(奈良県)
- 栄養管理の面で専門性を持つ人の配置ではなく、職員同士でご飯を作っているのでアレルギーにすぐに対応できない。講習会なども受けてはいるが活用できているかは分からない。(沖縄県)
- 伝染病が(コロナ等)発生することを、懸念してる。(静岡県)

29 今後の活動意向に関する自由記述

①規模・頻度・種類を拡大したい

- 月に1回の開催を増やしたい・学習支援を長期休み以外に定期的に開催したい・多世代交流の体験イベントを計画したい(静岡県)
- ①こどもの居場所としての学習支援や交流の場にしていく ②高齢者の社会参加の場(ボランティア活動や食べるだけでも可)活動への参加(滋賀県)
- コロナ対策のため子ども食堂を開催できず、フードドライブ事業を開催していましたが、本年度より子ども食堂の「食べる事だけ」を再開しています。フードドライブ事業を毎月二回開催していますが、来年度はひとり親世帯食材支援事業一回を残し、今月一回行っている子ども食堂を二回に増やしたいと考えております。ただし、私たちの町で子ども食堂を利用したい人がどれくらいいるのか、必要とされているのか疑問も抱いているところです。(宮城県)
- 会食制に移行してから、参加者が減少しました。土曜日の昼食なので、来会できる子どもが少ないということもあります。生活に困窮している子育て中の家庭が、孤立することなく、一緒に会食する楽しさやホッとできる場所を提供したいと考えています。まだ人数に余裕がありますので、参加者がもう少し増えるようお知らせ活動をしていきたいです。(東京都)
- 生活困窮者を対象とせず、参加者を増やしその中に入って来るように内容を工夫しています。なおかつ、多世代が参加したり応援側に回ったりしてふれあいと顔を見ながら会話することにより地域のコミュニティを深めたいと考えています。今は、実行委員会形式ですが開催地域を増やし賛同者の意識を高めながら組織化を図りたいと思っています。(福岡県)
- 非常にニーズが高い一方で、中高生の居場所がまだ、未完成である。食事だけでなく ゆっくり過ごせる空間を作りたいが、改装費用の助成金が なかなか取れずにいる。100万単位でよいので、空間作りの費用も今後期待したい。(香川県)
- 毎回提供可能数を上回る要望があり、提供が間に合っていない。席数などの設備も不足している。(神奈川県)
- 現状の会食形式に加えて、弁当配布希望者がいるのでパントリー形式も追加したい。また、学習支援や悩み相談コーナーなどを追加したい。(神奈川県)
- いま実施している会食型の子ども食堂に加えて、食育として子どもたちと畑をやったり、習い事をするのが難しい家庭も参加できるような英会話教室や学習支援などをしていきたいと考えているが、構想の段階で実現は未定である。(茨城県)
- デイキャンプなど交流の機会を増やしたい 食育についてももう少し踏み込んだ活動をしたい(長崎県)
- ひとり親中心の支援活動を行っています。今後は、スイカ割りやかき氷など、配布中心でしたがイベントもして行きたいです。子ども達による調理も増やしていきたいと思っています。(福井県)
- 可能な限り、へき地や子供食堂などのない場所へ希望があれば出張し、地域の活性化をしていきたい。(奈良県)
- 小学生、高齢者、障害者の交流の場、居場所として始めたが、現在小学生が支流となっている。今年度は、老人クラブ×2、放課後発達障害支援施設×2とのコラボを予定している。いずれは回数を増やしたい。(富山県)
- 地域食堂として活動しています。仕事をしているので今は月に1回がやっとですが、希望としては、食堂・カフェ・惣菜屋などを、運営しつつ、いつでも来ていいよ!という居場所を作りたいです。活動をしていて、その必要性を強く感じています。そこを手伝うのは地域のお年寄りだったり、就労支援が必要な方だったり、人と人がつながる場所作りを目指して活動していきたいと思っています。(鹿児島県)
- 地元の消防団員の方達も積極的に協力をして頂いています。今後は自主防災にも声をかけさせて頂き、防災(炊き出し等)に対しても地元で協力が出来ればと考えています。(愛媛県)

29 今後の活動意向に関する自由記述

②規模・頻度・種類を縮小したい

- 8年目に入り、近くに2つ子ども食堂も出来、またスタッフも高齢になり、拠点がない事で存続も難しいと思うようになった。福祉館を借りているが荷物運びや片付け、前準備も出来ないことが大変、個別支援だけにするのも難しいし、今後どうするか思案中(鹿児島県)
- お渡しする物資の減少とボランティアの数も限られて手が回らない事もあり 利用世帯数を減少しました。その代わりに子ども達に遊び場としての役割や子ども達が参加できるような取り組みをしたり、相談できる雰囲気を持っていこうと思っています。(愛知県)
- コロナ流行時には、密を避けるため2回のどちらかに参加を、という形にしていたが、5類に移行したという事もあり、スタッフ、ボランティアの負担軽減のため、元の月1回に戻す事にした。すると、1回に130~140人の参加となり、嬉しいですが、安全面での不安あり。申し込みを断る事はしたくないので、2ヶ月に一度を選んでもらうを施工中です。(福岡県)
- ボランティアの平均年齢が66歳ぐらいなので、食事の提供が厳しい状態になってきました。こども食堂の回数を減らしたいと思いつつ、助けたい家庭は増えてきて、なかなか歯がゆい状況です。したがって、食事の提供よりもフードバンクを設置して食品や生活雑貨(生理用品)等の配布中心に移行していきたいと考えています。(茨城県)
- 昨年度まであった県からの支援物資が無くなり、フードパントリーは中止、子どもたちやご高齢者に対する支援が縮小せざるを得なくなり、残念ながら参加者が減少傾向となっている。運営も経費面で非常に厳しい状況ではあるが、スタッフ一同を併せて頑張って継続させている。(徳島県)
- 参加者数に対する助成金の申請や報告が正直大変だと感じています。スタッフが高齢、若い人は学業や仕事の合間に参加のため頼れない。理事、副理事ともに、別の仕事も多数ある上での運営を行っているので、資金的な安定があると開催しやすく継続できるため、国の施策の一つとして資金の確保が出来ると良いと考えています。(北海道)
- 先が見えず、モチベーションや資金の低下により子ども食堂は閉めることも検討中(岐阜県)
- 補助金で活動をしているのだが、人件費に充てることができず、運営が厳しい。(沖縄県)

現状の規模・頻度・種類を継続したい

- 2016年から活動を続けてきたがコロナかを経てスタッフと相談しながら少しずつ形を変えて継続してきました。現在のスタッフ人数から最善の形となっているので、この状況で継続していきたいと思います。(東京都)
- 2019年7月~食事提供を開始して丸5年経ち、コロナ禍を経て、色々話し合いを重ねたり工夫しながら現在の形や方式に行き着きました。地域作りをメインに置いていますので、各参加家庭の困りごと等を鑑みながら丁度良い太さの繋がりを維持し、スタッフ側も利用者側も含めてお互いに助け合いながら進んで行ければと考えています。コロナ禍以降の方が却ってお困りのご家庭が増えた印象ですので、今はこれ以上規模を拡大するより今やっていることを縮小せずに確実に継続して行くことが、小さいながらも地域の助けとなって行くのではと考えます。(埼玉県)
- こどもの声を聴くことを大切にしています。慌てずバタバタしない空間づくりに心がけるには今の現状が一番よく、スタッフのキャパオーバーにもならず、子どもも大人もゆっくりできて、互いに交流でき、またひとりの時間も楽しめるからです。(愛知県)
- コロナ前は会食型の子ども食堂を実施し、コロナ禍で支援を継続するためにフードパントリーに変更。現在のこの形が、最適だと思っています。なので、継続の為に尽力したい。(兵庫県)
- スタッフは10名で、全員高齢者なので、現状維持で継続したい。(福島県)

29 今後の活動意向に関する自由記述

- より多くのお子様にご参加いただきたいという思いはあるが、場所の広さの問題があるため、今のまま継続していきたい。(兵庫県)
- 学童に通われているお子さんを中心に食事の提供をしておりますが、一方で、近所のお年寄りの方々も利用しています。準備時間の確保やスタッフ数を考えると拡大は難しいので、現状維持が現実的かと思います。(埼玉県)
- 企業から弁当を発注し安価に販売し、企業や個人から寄付を募りながら運営をしているため、規模や頻度を増やすと資金繰りが苦しくなるため、現状を維持していきたい。(広島県)
- 規模・頻度は変えずに、個別の支援を手厚く行いたい。(東京都)
- 規模を拡大して、スタッフを増やし、地域の方の働く場にしていきたいが、なかなか支払い出来るお金もないので、少ないスタッフと限られたものでやりくりしなければいけないので大変です。せめて食品の支援があれば、こども食堂の予算がかかなくていいのですが、、今は現状維持がしばらくの目標です(神奈川県)
- 規模を拡大するには人手の確保、資機材や食品保管場所の確保、金銭面での不安があります。運営者が子育て世代のため自分の家庭を大切にしながら活動を継続できるようにと考えています。生活困窮している子育て世帯や小児慢性特定疾病や希少疾患で闘病中の子どもとそのご家族への支援メニューを充実させたい。(埼玉県)
- 今、現状維持をするのに、資金、スタッフ等がギリギリのため、続けて行きたいと思っておりますが、地域のご支援、多方面からのご支援の継続を心より願っております。上記の回答の子供食堂の主な目的とありますが、もう少し余裕があれば、深掘りして執り行う事ができるのかなと感じております。(愛知県)
- 今までも今後もとにかく一過性の支援ではなく継続支援を目指している。開催頻度を増やしたとは思っているが任意団体(代表を含め全員無償ボランティア)の為、開催時人員・支援品・食材の調達などほぼ一人で行うことが多いので時間の調整が大変!なので出来る範囲で無理せずをモットーにとにかく1回でも多く継続して活動することが目標。(愛知県)
- いろいろとしたいことは沢山あるが、補助金が少なすぎてこれ以上は拡大、種類は増やすことができない。(大阪府)
- こどもの居場所となる活動場所を地域の方々に声をかけて探しているがこども達が集まり安い駅近は地価が高く借りる事ができない。また低賃金で貸してくれる人や企業がない。公共の場所では使用回数に制限があり、また時間や日数を増やすことにより部屋代の請求がある。倉庫がなく、荷物の運搬も大変である。他の事業も含めて団体の活動拠点をもちたい。(神奈川県)
- 飲食店の空いた時間で行っているので現状から手を広げるのは難しいと考えております。ただ、ボランティアスタッフを入れるなどしてこども達が楽しんでもらえるようなイベント(花火など)ができればと考えています。(熊本県)
- 今までと変わらず、季節の食材を取り入れた栄養価の高い食事の提供と季節のイベントで心の貧困を無くし、現役大学生による学習支援と親の子育て支援(お悩み相談会)の実施を継続していきます。(東京都)
- 昨年度より、子ども食堂、料理教室、リコーダー教室、イベント(年三回)、アート教室、学習支援、防災拠点と大きく6つの柱を掲げています。継続していけるよう工夫中です。(和歌山県)

別添1

.....

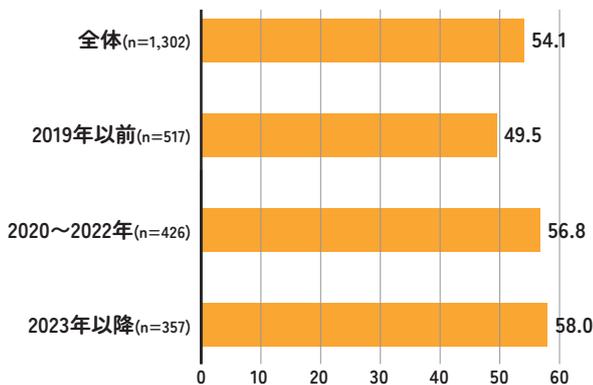
クロス集計 データ

12 -1 こども食堂での困りごと

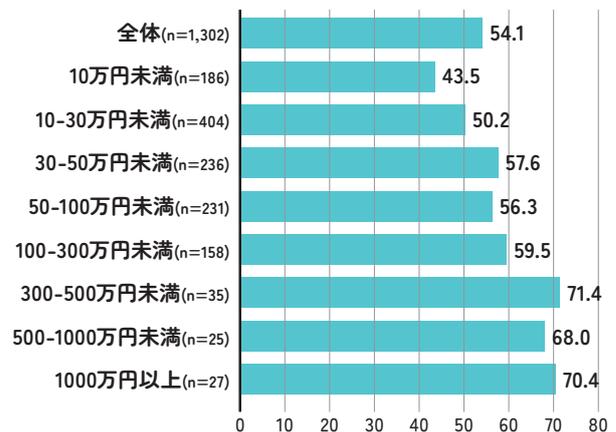
クロス集計：困りごとの上位4項目について活動開始年別、予算規模別、今後の意向別でクロス集計を実施。

【1】「運営資金の不足」

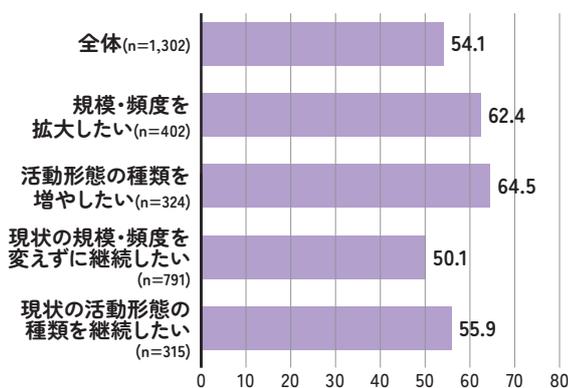
①活動開始年別の「運営資金の不足」の割合



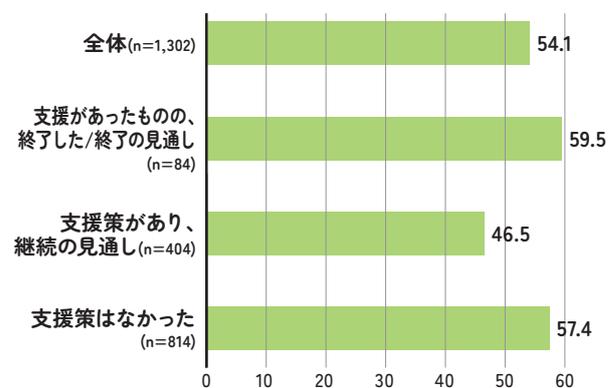
②予算規模別の「運営資金の不足」の割合



③今後の意向別の「運営資金の不足」の割合



④物価上昇に対する民間からの支援の状況別の割合



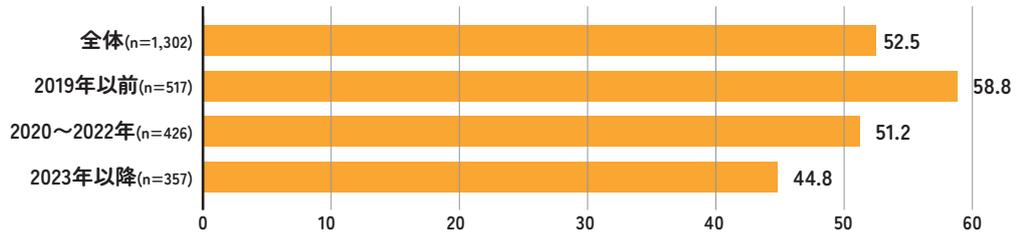
各クロス集計からわかること

- 活動開始年別で見ると、2019年以前に活動開始したこども食堂では、困りごとで「運営資金の不足」を挙げるところは少ない。
- 予算規模別で見ると、予算規模が大きくなるほど、困りごとで「運営資金の不足」を挙げるところが多い傾向にある。
- 今後の意向別で見ると、拡大意向を持つ（規模・頻度を拡大したい、活動形態を増やしたい）こども食堂では、困りごとで「運営資金の不足」を挙げるところが多い。
- 物価高騰に対する民間からの支援の状況別で見ると、民間からの支援があり、継続の見通しのあるこども食堂では、困りごとで「運営資金の不足」を挙げるところは少ない。

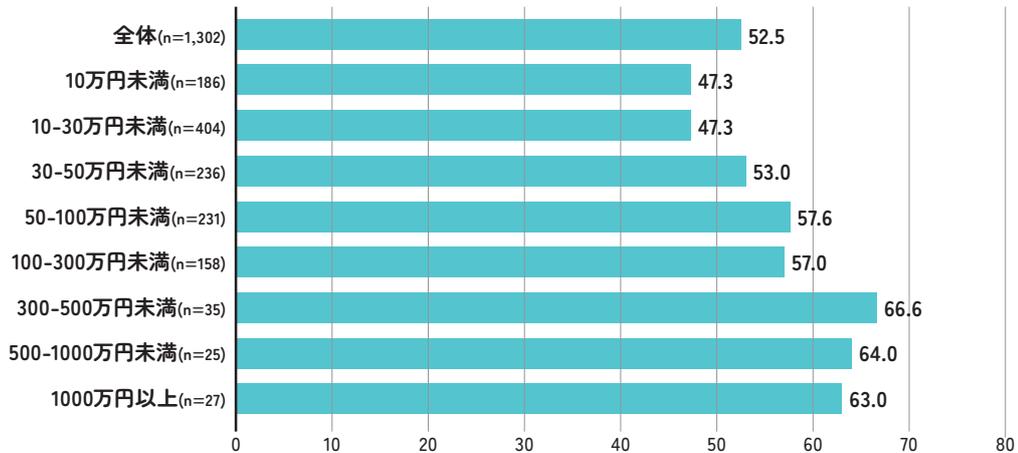
12 -1 こども食堂での困りごと

【2】「運営スタッフの不足・後継者不足」

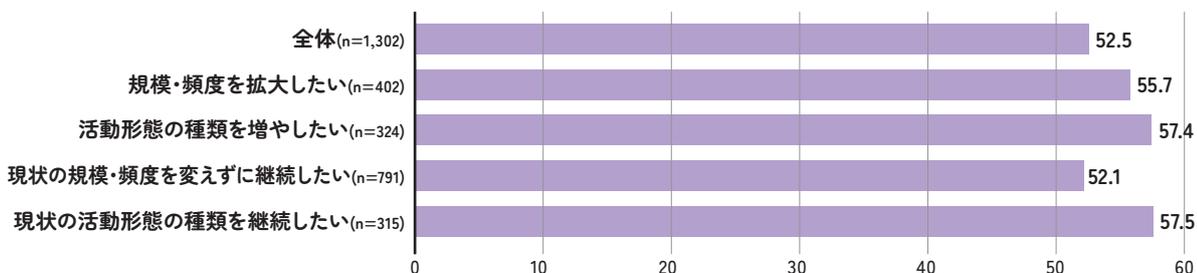
①活動開始年別の「運営スタッフの不足・後継者不足」の割合



②予算規模別の「運営スタッフの不足・後継者不足」の割合



③今後の意向別の「運営スタッフの不足・後継者不足」の割合



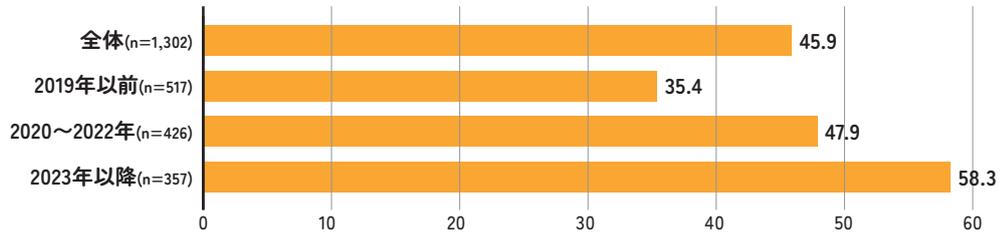
各クロス集計からわかること

- 活動開始年別でみると、2019年以前に活動開始したこども食堂では、困りごとで「運営スタッフの不足・後継者不足」を挙げるところは多く、2023年以降に活動開始したこども食堂では少ない。
- 予算規模別でみると、予算規模が大きくなるほど、困りごとで「運営スタッフの不足・後継者不足」を挙げるこども食堂が多い傾向にある。
- 今後の意向別でみると、意向に関係なく、困りごとで「運営スタッフの不足・後継者不足」を挙げるこども食堂は5～6割を占める。

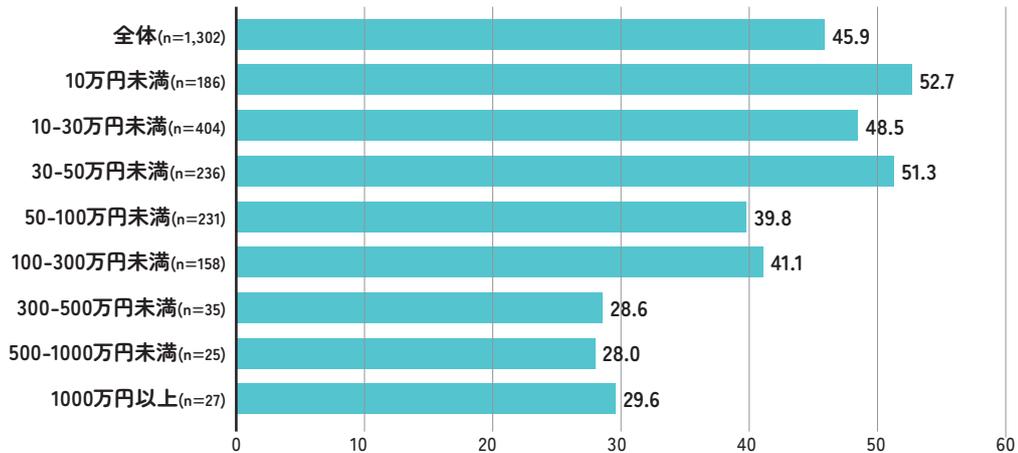
12 -1 こども食堂での困りごと

【3】「必要な人に支援を届けるための周知・広報」

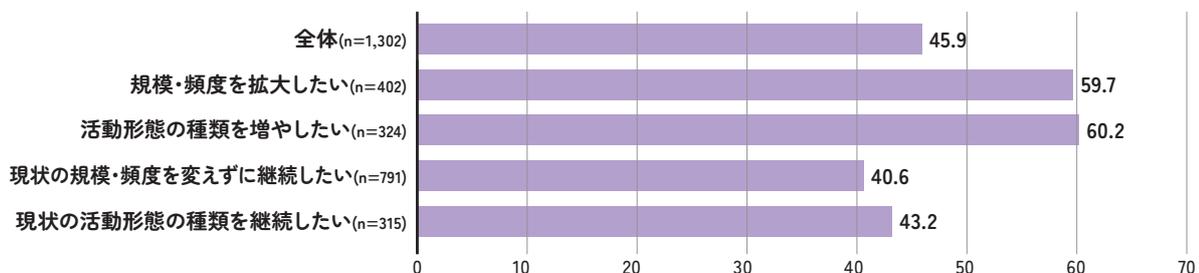
①活動開始年別の「必要な人に支援を届けるための周知・広報」の割合



②予算規模別の「必要な人に支援を届けるための周知・広報」の割合



③今後の意向別の「必要な人に支援を届けるための周知・広報」の割合



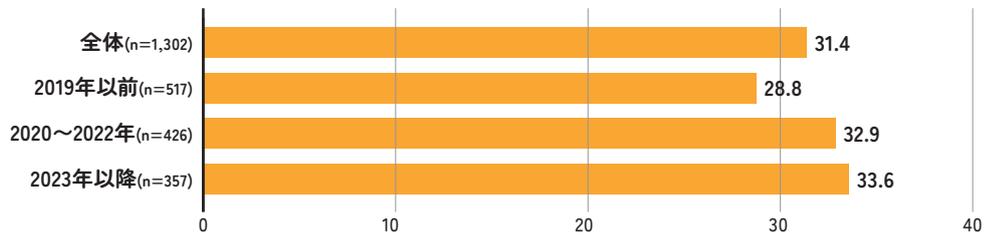
各クロス集計からわかること

- ・活動開始年別で見ると、2019年以前に活動開始したこども食堂では、困りごとで「必要な人に支援を届けるための周知・広報」を挙げるところは少なく、2023年以降に活動開始したこども食堂では多い。
- ・予算規模別で見ると、予算規模が小さいほど、困りごとで「必要な人に支援を届けるための周知・広報」を挙げるところが多い傾向にある。
- ・今後の意向別で見ると、拡大意向を持つ（規模・頻度を拡大したい、活動形態を増やしたい）こども食堂では、困りごとで「必要な人に支援を届けるための周知・広報」を挙げるところが多い。

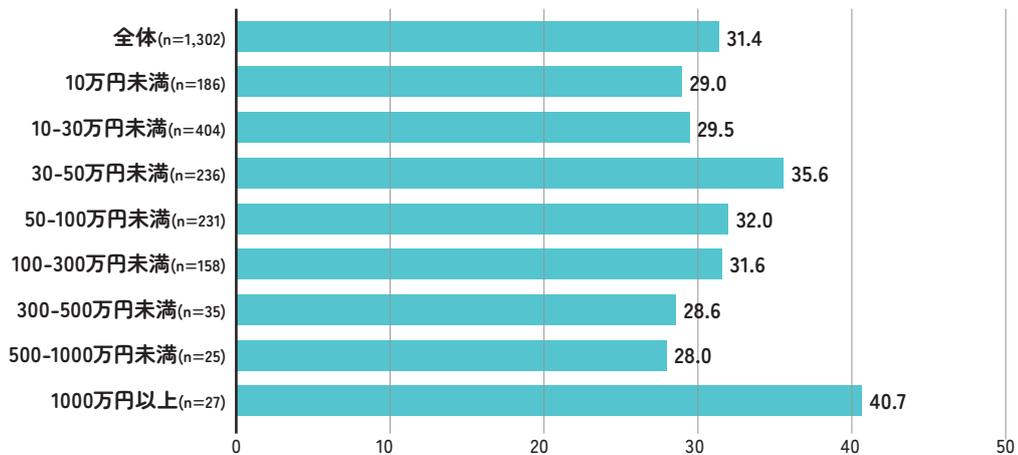
12 -1 こども食堂での困りごと

【4】「食材の不足」

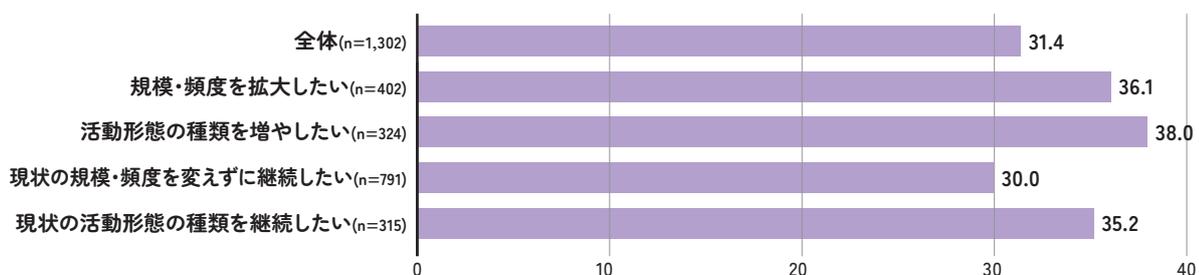
①活動開始年別の「食材の不足」と回答した割合



②予算規模別の「食材の不足」と回答した割合



③今後の意向別の「食材の不足」と回答した割合



各クロス集計からわかること

- ・活動開始年別で見ると、活動開始年に関係なく、困りごとで「食材の不足」を挙げるこども食堂は3割前後を占める。
- ・予算規模別で見ると、1,000万円未満のこども食堂では、予算規模に関係なく、困りごとで「食材の不足」を挙げるところが3割前後を占める。
- ・今後の意向別で見ると、拡大意向を持つ（規模・頻度を拡大したい、活動形態を増やしたい）こども食堂では、困りごとで「食材の不足」を挙げるところが多い。

12 -2 こども食堂での困りごと（最も）

活動開始年別の最も困っていること

	全体(n=1,302)	2019年以前(n=517)	2020～2022年(n=426)	2023以降(n=357)
運営資金の不足	26.7	27.9	24.9	27.2
運営スタッフの不足・後継者不足	20.7	20.5	20.2	15.1
「必要な人(貧困家庭など)に支援を届けるための周知・広報」	15.7	11.2	15.7	22.1
運営スタッフの不足・後継者不足	6.4	7.2	5.2	6.4
必要な人(貧困家庭など)に支援を届けるための周知・報告	4.1	3.3	4.7	4.5
食材の不足	3.9	3.3	4.0	4.8
機材・設備の不足	3.7	2.1	4.7	4.8
会場の不足(会場の確保・維持等が難しい)	3.3	3.9	4.2	1.4
運営スタッフの管理・ケア	3.3	3.9	2.8	3.1
学校・教育委員会の協力が得られない	1.5	1.7	1.9	0.8
ホームページやSNS等の活用	1.2	0.8	1.2	1.7
地域住民・地域組織(自治会等)の協力が得られない	1.1	0.6	0.9	2.0
利用者の個別支援・トラブル対応	1.0	1.5	0.7	0.6
行政の協力が得られない	1.0	1.5	0.7	0.6
ITツール(zoom、Googleカレンダー、会計ソフトなど)の活用	0.9	0.6	0.9	1.4
食中毒などの衛生管理	0.9	0.8	1.2	0.8
会食とフードパントリーとの両立	0.8	1	0.9	0.3
こども食堂同士の連携	0.5	0.4	0.9	0.3
地域ネットワーク団体との連携	0.5	0	0.5	1.1
食物アレルギー対応	0.4	0.6	0.5	0
社会福祉協議会の協力が得られない	0.1	0	0.2	0
相談先・協力依頼先が分からない	0.1	0.2	0	0
持続可能な運営(資金・人的な面から)	0.1	0.2	0	0
その他	2.3	2.5	3.1	1.1

各クロス集計からわかること

- ・ 活動開始年別で見ると、2019年以前、2020～2022年、2023年以降ともに、最も困っていることの上位の項目は「運営資金の不足」「運営スタッフ・後継者の不足」「必要な人に支援を届けるための周知・広報」が占める。
- ・ ただし、2019年以前については他より「運営スタッフ・後継者の不足」が多く、2023年以降については他より「必要な人に支援を届けるための周知・広報」が多い。

16 困りごとへの対応策

■ 予算規模別クロス



■ 対応策を実施している ■ 対応策を検討しているが実施はしていない ■ 対応策を検討できていない

- 予算規模が大きいことも食堂ほど、「対応策を実施している」ところが多い傾向にある。一方で、予算規模が100万円未満のことも食堂では「対応策を検討できていない」が4割以上を占めて目立つ。

■ 困りごと別クロス



■ 対応策を実施している ■ 対応策を検討しているが実施はしていない ■ 対応策を検討できていない

- 困りごととして「運営スタッフ・後継者不足」を挙げることも食堂では、「対応策を検討できていない」ところが他と比べて多い。
- 困りごととして「必要な人に支援を届けるための周知・広報」や「食材不足」を挙げることも食堂では、「対応策を実施している」ところが他と比べて少ない。

■ 今後の意向別クロス



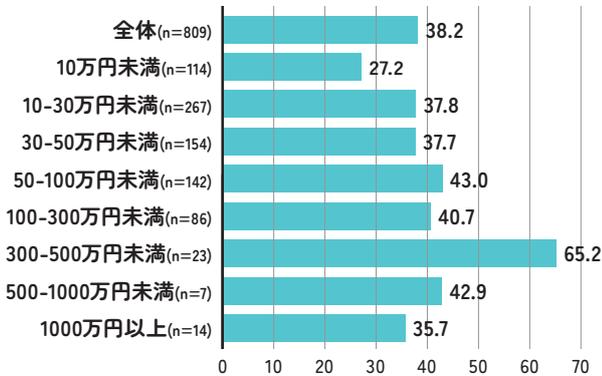
■ 対応策を実施している ■ 対応策を検討しているが実施はしていない ■ 対応策を検討できていない

- 今後の意向別でみると、拡大意向を持つ（規模・頻度を拡大したい、活動形態を増やしたい）ことも食堂では、「対応策を検討しているが実施はしていない」が他より多い。
- 現状維持の意向を持つ（現状の規模・頻度を変えずに継続したい、現状の活動形態の種類を継続したい）ことも食堂では、「対応策を検討できていない」が他より多い。

17 困りごとに対応するうえでの障壁

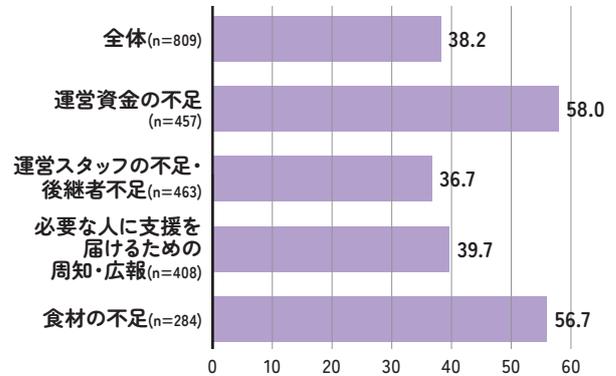
【1】「資金が確保できない」

① 予算規模別の「資金が確保できない」の割合



② 最も困っていること

別の「資金が確保できない」の割合

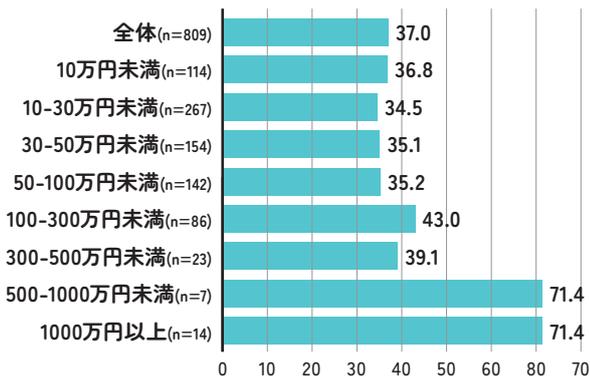


各クロス集計からわかること

- ・ 予算規模別で見ると、10万円未満のことも食堂では「資金が確保できない」が他より少なく、300～500万円未満では「資金が確保できない」が他より多い。
- ・ 最も困っていること別で見ると、「運営資金の不足」や「食材の不足」を挙げることも食堂では、「資金が確保できない」が他より多い。

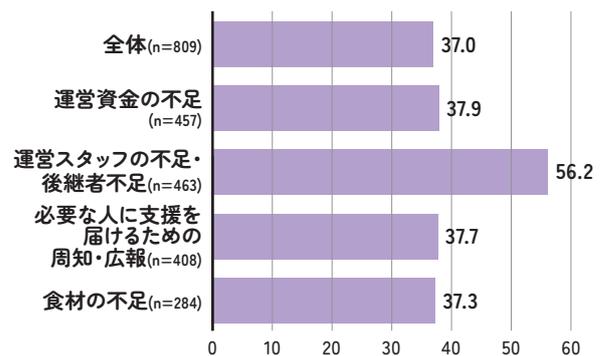
【2】「人員が確保できない」

① 予算規模別の「人員が確保できない」の割合



② 最も困っていること

別の「人員が確保できない」の割合



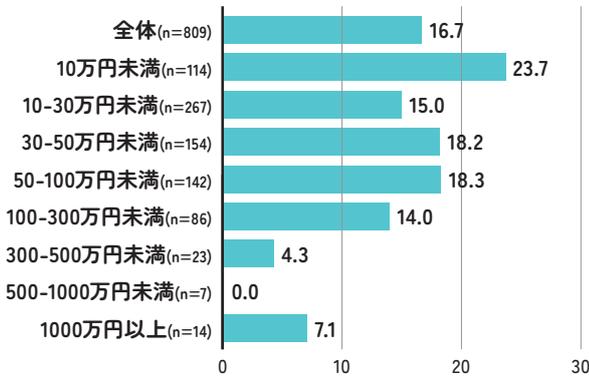
各クロス集計からわかること

- ・ 予算規模別で見ると、500万円以上のことも食堂では「人員が確保できない」が他より多い。
- ・ 最も困っていること別で見ると、「運営スタッフ不足・後継者不足」を挙げることも食堂では、「人員が確保できない」が他より多い。

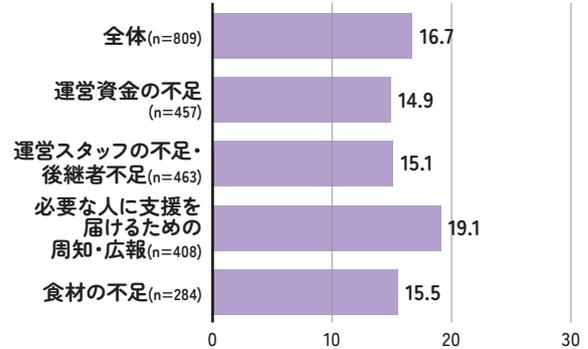
17 困りごとに対応するうえでの障壁

【3】「やり方が分からない」

① 予算規模別の「やり方が分からない」の割合



② 最も困っていること別の「やり方が分からない」の割合



各クロス集計からわかること

- ・ 予算規模別で見ると、10万円未満のこども食堂では「やり方がわからない」が他より多い。
- ・ 最も困っていること別で見ると、「必要な人に支援を届けるための周知・広報」を挙げるこども食堂では、「やり方が分からない」が他より多い。

19 こども食堂や食材配布を行うにあたり、昨今の物価上昇の影響

■ 予算規模別クロス



- 物価上昇による影響は特に感じていない
- 物価上昇による影響を感じているものの、物価上昇前に比べて開催頻度や料金、食事の内容などを変更していない
- 物価上昇による影響を感じており、物価上昇前に比べて開催頻度や料金、食事の内容などを変更する予定
- 物価上昇による影響を感じており、物価上昇前に比べて開催頻度や料金、食事の内容などを既に変更している

- 予算規模が30万円未満のこども食堂では、他の予算規模と比べて「物価上昇による影響は特に感じない」が多い。
- 予算規模が50万円以上100万円未満のこども食堂では、他の予算規模と比べて「物価上昇による影響を感じているものの、物価上昇前に比べて開催頻度や料金、食事の内容などを変更していない」が多い。
- 予算規模が100万円以上300万円未満のこども食堂では、他の予算規模と比べて「物価上昇による影響を感じており、物価上昇前に比べて開催頻度や料金、食事の内容などを変更する予定」が多い。
- 予算規模が1,000万円以上のこども食堂では、他の予算規模と比べて「物価上昇による影響を感じており、物価上昇前に比べて開催頻度や料金、食事の内容などを既に変更している」が多い。

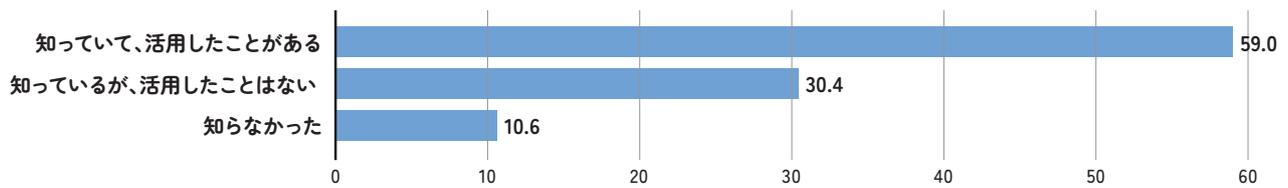
別添2

.....

むすびえプロジェクトの
活用状況

【1】運営資金不足が困りごとの場合、むすびえ助成金の認知度

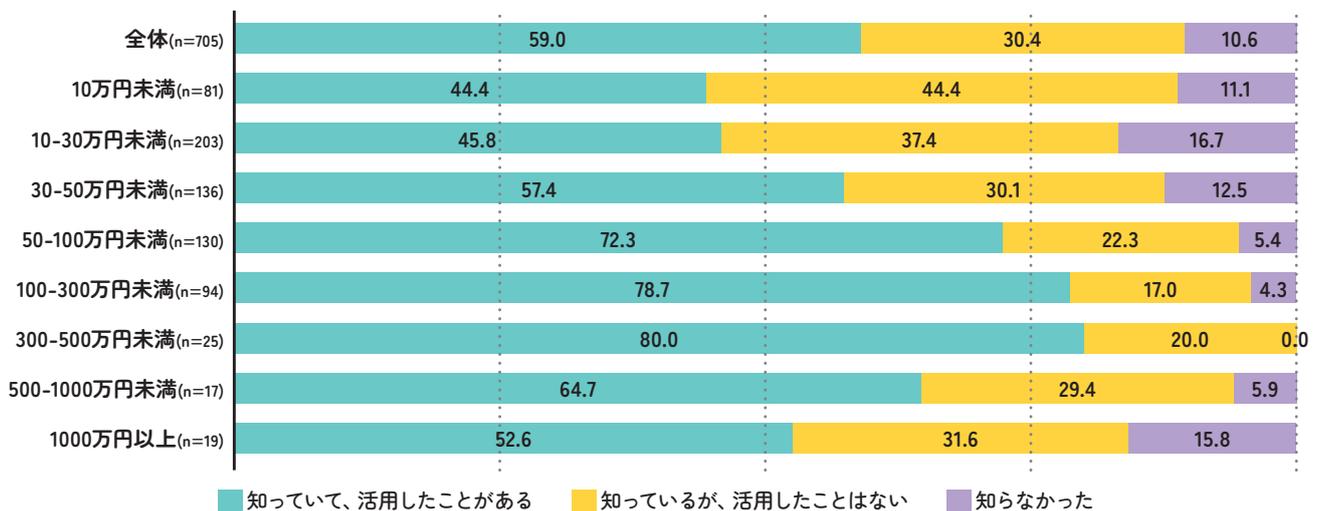
回答数:705件 単位:%



アンケートからわかること

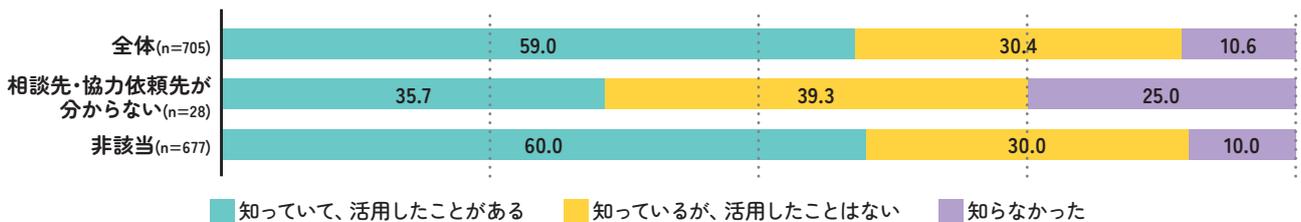
- ・運営資金の不足を感じている人のうち、むすびえの助成金について「知っている、活用したことがある」と答えた人は59.0%であった一方で、「知っているが、活用したことはない」という回答も30.4%となった。

■ 予算規模別クロス



- 予算規模が30万円未満のことも食堂では、他の予算規模と比べて「知っている、活用したことがある」は少なく、「知っているが、活用したことはない」が多い。
- 予算規模が50万円以上500万円未満のことも食堂では、他の予算規模と比べて「知っている、活用したことがある」が多い。
- 予算規模が500万円未満までのことも食堂では、予算規模が大きくなるほど、「知っている、活用したことがある」が多くなる傾向にある。一方で、予算規模が小さいほど、「知っているが、活用したことはない」が多くなる傾向にある。

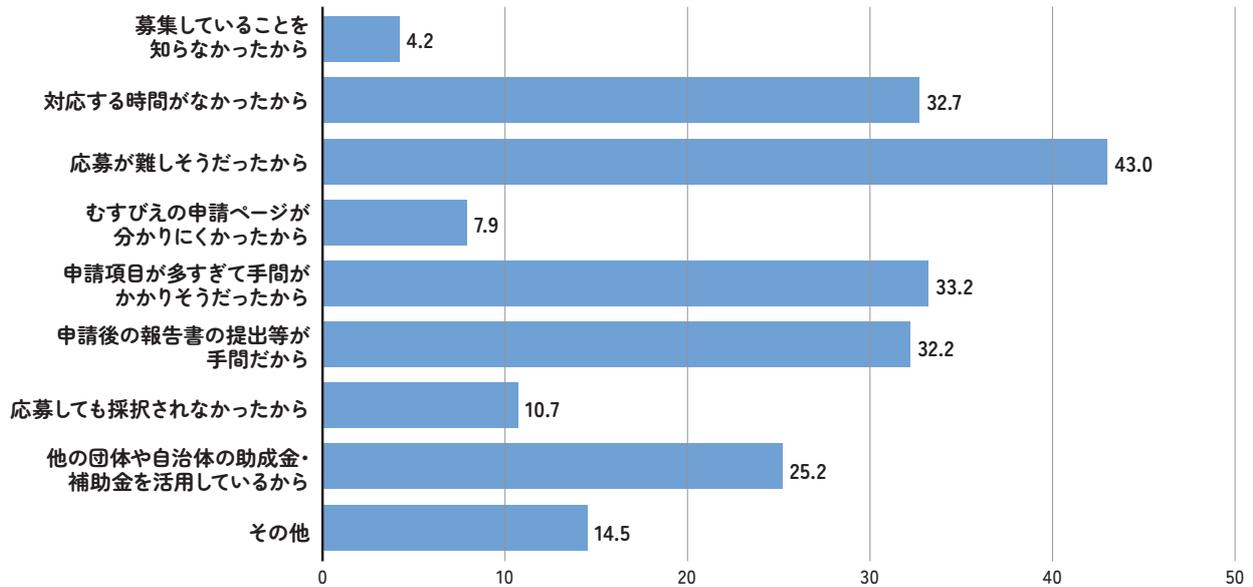
■ 相談先・協力依頼先の有無別クロス



- 相談先・協力依頼先がわからないとすることも食堂では、「知っている、活用したことがある」は少なく、「知らなかった」が多い。

【2】運営資金不足が困りごとの場合、むすびえ助成金の不活用理由(複数回答)

回答数:214件 単位:%

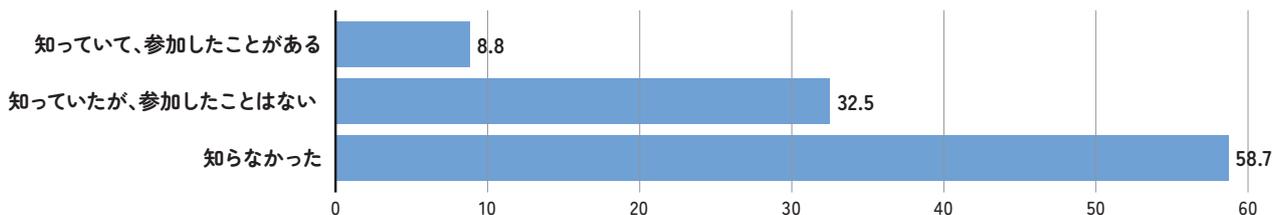


アンケートからわかること

- ・むすびえの助成金について「知っているが、活用したことがない」と回答した人のうち、活用していない理由としては「応募が難しそうだったから」が最多の43.0%となった

【3】運営資金不足が困りごとの場合、むすびえファンドレイジングセミナーの認知度

回答数:705件 単位:%



「知っていたが、参加したことはない」と回答いただいた方の参加しなかった理由

- 他の事業も行っているので、時間がない(熊本県)
- 仕事と家庭の時間の調整(愛知県)
- 通常仕事をしながら、子ども食堂などを開催するだけでも大変なので、セミナーに参加したり申請・報告作業を日々するのは大変なため、助成金もいくつも申し込んだりはできません。(福岡県)
- 継続的な資金確保が出来るのか疑問が残る(神奈川県)
- お金があれば、動けるものでもない。使うために主に人の体制や仕組みが必要になる。(千葉県)
- 難しそうだと思いあきらめた。(大阪府)
- そこまでして拡大した活動をするパワーがないので、今くらいで精一杯。(熊本県)

【4】ボランティアの不足や運営スタッフの管理、後継者不足の困りごとに対して、 むすびえからどのような支援や研修会があると役立ちそうか。

- 協議体や地域の各団体さんらに周知。一緒に生活に困窮している世帯や子ども達の現況を知る研修(山梨県)
- 働き盛りの世代にボランティアの関心を持ってもらえるような働きかけをして欲しい。(プロボノというのでしょうか?)(和歌山県)
- 今までのような、発信型の研修会に加えて、出張型の研修会を増やしてみてもいいかなと思います。これまでは「子ども食堂」を知っていて、子ども食堂に興味のある方々が研修を受けるシステム出会ったと思うが、これからは例えば子どもに関係することを学んでいる学校へ出向いたりだとか、行政や関係機関との連携のパイプを作るような研修会を展開してみるのはいかがでしょうか?(千葉県)
- 若い人が恒常的に関わってほしいので、魅力的なオンライン研修を発信して下さるよう願います。(宮崎県)
- テレビCMの「みんなで食べるとおいしいね」は、子ども食堂の理解と周知にとっても有効だと思っています。CMで地域の子どもの食堂への支援を呼びかけて頂きたいです。(山口県)
- ボランティアの募集の仕方。ボランティアの方との接し方、留意する点。などを教えて頂きたいです。(兵庫県)
- 他の団体の方がボランティアの方に無償なのか謝礼金を出すことがあるのか、出すのであればどのタイミングでいくら位など目安が分かると対応しやすいです。(千葉県)
- ボランティアを行うにあたってのハードルを下げるPRをしていただくと助かります。(福島県)
- ボランティアマッチングのサイトを作ってください。(愛知県)
- 助成金が一番の支援になります。(愛知県)
- 衛生管理やレシピ、子ども食堂の一般的な運営法などのノウハウをテキストではなくビデオマニュアルとしてYouTubeなどの動画サイトで公開していただくとありがたいです。(福島県)
- 食中毒に関するチラシやポスターがあればボランティアに意識づけるきっかけになる。(大阪府)
- 運営上の資金構成の考え方の研修会を行ってほしい(大阪府)
- 学生スタッフが増えた場合などに子どもとの関わり方や居場所事業のやりがいなどを第三者として伝えてあげて欲しい。(青森県)
- たとえば大学生や若い人への研修会でボランティアに参加することの意義や魅力などを伝えていただければ少しでも若い人材確保に繋がるのではないのでしょうか(兵庫県)
- 当日のスタッフというよりは、後継者教育をして人材を育ててほしい(香川県)
- 各市町村単位で、子育て支援・居場所支援に関心のある方の、ボランティア・スタッフ求職中の方の、人材バンクがあると助かります。もしくは、ボランティア・スタッフ求職中の方への各子ども食堂の情報検索が容易に行えるようなHPや、SNS発信をしていただくと助かります。(鹿児島県)
- 助成金の使途が食材費に限られていたりすると交通費などに回せなくなりますので、物のための支援も大切ですが、人を育てたり、動いてもらえるような支援を望みます。(徳島県)
- 研修会等で他の団体との交流や意見を聞くチャンスがあると良い(鹿児島県)

【5】衛生管理が困りごとの場合、 むすびえ食品衛生管理向上プロジェクトの認知度

◎回答数：158件 単位：%

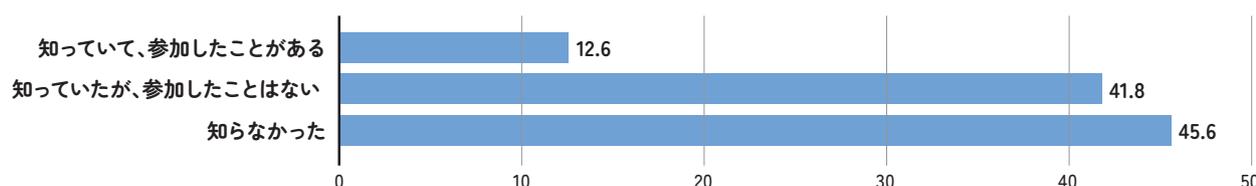


「知っていたが、参加したことはない」と回答いただいた方の参加しなかった理由

- ボランティアのため、重要性はわかっているものの、時間をさけなかった(東京都)
- タイミングが合いませんでした。(福島県)
- 私自身が調理師のため、衛生管理については徹底し周知できている。(大阪府)
- 県や他の民間団体が主催している食品衛生管理セミナーを受講したり、食品衛生協会の講師を招いて研修会を開いている。(埼玉県)

【6】むすびえのIT活用支援プロジェクトの認知度

回答数:1,302件 単位:%



アンケートからわかること

- ・むすびえのIT活用支援プロジェクトについて知っていると感じた人は全体の54.4%であったが、実際に参加したことがあるのは12.6%であった。
- ・半数近くのこども食堂は、IT活用支援プロジェクトのことを知らないという回答となった。

「知っていたが、参加したことはない」と回答いただいた方の参加しなかった理由

- 苦手意識から(千葉県)
- 現状で手一杯なので、新たな事を手がける時間も余裕もない。(福岡県)
- システム対応に不慣れなため、簡単なシステムへのアプローチができれば幸いです。(千葉県)
- アーカイブでいつでも視聴できると良い。時間の余裕がない。(愛知県)
- SNS系が苦手です。ついていけない⇒まったく知らない72歳の私でもついていける企画があれば有難い(岩手県)
- 時間確保が難しいのと、こども食堂での切羽詰まった必要性を感じないため。(大阪府)

【7】こども食堂の運営にITツールを活用する上で、困っていることの詳細、どのような支援があったらよいか

- ホームページを作成したいが、頼むと高額なので自力でやるしかないのかなと悩んでいます。(和歌山県)
- ラインでの案内や申し込みを受付するのに利用しているが無料枠がいっぱいになるから有料枠の支援がほしい(山口県)
- 困っていることをGoogleフォームで連絡したら応えてくれると良い。(愛知県)
- 公式LINEアカウントを作成したいが、管理費が負担になるため、オープンチャットを代用している。公式LINEの開設補助があると嬉しい(福島県)
- Googleフォームをもっと深く学びたい(茨城県)
- snsを有効活用したいが、投稿数や管理などに必要な時間と手間が確保できないために使用していない。(東京都)
- SNS系について相談や勉強が出来るように、平日10:00~17:00の時間帯でいつでも相談できる体制があるとありがたいのですが。(岩手県)
- LINE、Facebook、Instagram等ツールが多すぎ、おすすめの集客、顧客管理の方法を案内してほしい(福岡県)
- Googleカレンダー、Canva、子ども食堂用Amazon欲しいものリスト使用方法について、教えて頂けたらと思います。こども食堂公式ライングループについては、グループ内だけで、個別に繋げることは出来ないようになっているのでしょうか?(大阪府)
- 団体専用パソコンがほしいです。(埼玉県)
- ポケットWi-Fi及びタブレットの貸し出し(福岡県)
- Amazonほしいものリストに登録したが、その後の対応ができておらずまだ寄付を受け取れていない。決められた日時の一斉レクチャー開催ではなく、随時個別にオンラインで支援してもらえると助かる。(東京都)



こども食堂の現状 & 困りごとアンケート

vol.9

結果報告

本アンケートのご回答へご協力いただいた
こども食堂・地域ネットワークのみなさまにお礼申し上げます。

むすびえでは、本アンケート結果を元に、
こども食堂の運営者のみなさまのお役に立てる施策を
検討・実施してまいります。

引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。
